

令和7年度

研究紀要

共に歩む

第22号

研究主題

児童生徒の学びをつなぐ授業づくり
～児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえて～
(1年次/2年計画)



秋田県立支援学校天王みどり学園

題 字 : 湊 慶 吉 氏 (本校元学校評議員)

目次

■ はじめに	校長 高田屋 陽子
I 全体研究	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
II 学部研究	
小学部の取組	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
中学部の取組	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
高等部の取組	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
III 研究のまとめ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
■ 学習指導案（全校研究会より）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
■ あとがき	教頭 相場 力
■ 研究同人	

はじめに

校長 高田屋 陽子

本校では、今年度から「児童生徒の学びをつなぐ授業づくり～児童生徒の『思い』や『願い』を踏まえて～」という研究テーマのもと 2 年間の全校研究がスタートしました。これまでの研究をベースに更に一步踏み込んだ形での研究となります。

昨年度までの研究では、児童生徒の「主体的に学びに向かう姿」やその「見取り」について深めてきました。児童生徒の「主体的に学びに向かう姿」を基盤に学びを積み重ね、その変容をチームで丁寧に見取り、授業改善に繋げていくというシステムづくりが明確になりました。一方で「学んだことや身に付けた力が他の学習場面に十分に応用・般化されているだろうか」という課題も見えてきました。

こうした成果と課題を踏まえて、今年度は「学びをつなぐ授業づくり」「『何を学ぶか』の明確化」を重点に研究を進めていくことになりました。

「学びをつなぐ」という言葉からはたくさんの事柄が想起されます。本校では「学びをつなぐ」ということを 2 つの方向性、学びの積み重ね（縦のつながり）、学びの広がり・活用（横のつながり）と仮定しました。また、「何を学ぶか」については、年間指導計画の作成や単元構想シートやキャリアノートなどのツールも活用しながら意見交換を行うことで適切に設定することを試みました。

授業づくりにおいては、昨年度までの取組を生かし、児童生徒一人一人にじっくりと向き合いながら丁寧に進めることができました。その際、授業研究会では、「学びをつなぐ」ということが具体的にどのようなことなのか、試行錯誤しつつ進めてきました。この研究紀要を通して今年度の取組を整理し、共通理解しながら次年度の取組に向けていきたいと考えています。

研究を進めるにあたり、総合教育センターの高橋亜希子主任指導主事、進藤拓歩指導主事、長崎雪子指導主事にはご多忙の中、何度も授業研究会に足を運んでいただき、研究の進め方も含めて丁寧なご指導をいただきました。子どもたちへの温かなお声かけも大変励みになりました。

まだまだ迷いつつの研究ですが、こうして授業改善について考え続けることが私たちの大事な責務だと捉えています。これまでの歩みを今年度の研究紀要「共に歩む第 22 号」としてまとめました。ご高覧いただき、次年度以降の研究に生かすために、皆様から忌憚のないご意見やご感想等をいただければ幸いです。

I 全体研究

研究主題

児童生徒の学びをつなぐ授業づくり

～児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえて～（1年次／2年計画）

1 研究主題設定の理由

(1) 過年度の研究成果と課題

昨年度までの2年間、「主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり～教師による子どもの『見取り』に焦点を当てて～」の研究主題の下、研究に取り組んできた。その中で得られた主な成果と課題は次のとおりである。

【成果】

- 教師の「見取り」に対する意識や見取る力が向上し、「見取り」が本校の強みとして確立された。
- 同僚性・協働性の意識が向上し、チームで取り組む授業づくりの基盤が形成された。

【課題】

- ▲児童生徒の学びの応用・一般化（つなぐ）の視点や機会が不十分であった。
- ▲教科の視点での学習内容の設定や学習評価に課題があった。

2年間の実践を通して、教師の「見取り」に対する意識や見取る力が向上した。また、見取ったそれぞれの解釈を教師間で共有する「ふらっとミーティング」などの対話の場を通じて、同僚性や協働性が高まり、「見取り」を生かしたチームで取り組む授業づくりの基盤が形成された。

一方、課題としては、特定の場面での学びを積み重ねることができた反面、その他の学習場面や日常生活等へ学びをつなげることや、教科の視点による単元構成や授業づくり、学習評価などが課題として挙げられた。

これらのことから、今後は「見取り」やチームで取り組む授業づくりといった成果を日常的かつ継続的に実践できるような体制やツールの整備を進めていく。また、児童生徒の学びを一過性のものにせず、学んだことを応用・一般化するといった「学びをつなぐ」授業の在り方を探っていく。さらに、教科等の視点を踏まえて「何を学ぶか」を整理したり、学習評価の視点から「何ができるようになるか」を明確にしたりしながら、学習内容の検討や指導の充実を図っていくことを確認した。

(2) 目指す児童生徒の姿

昨年度まで、「自分で」「自分から」行動する姿、「自分の言葉で話す」「自分から意思表示する」姿、さらには、「主体的に学びに向かう姿」を目指す児童生徒の姿として掲げ、実践を重ねてきた。特に昨年度までの研究では、「主体的に学びに向かう姿」を設定し、教師が児童生徒の言動を丁寧に見取り、授業者にフィードバックすることで授業改善を進めてきた。

こうした実践を通して、小学部では、児童が自ら活動に参加し、友達と関わりながら学びを広げる姿や「つぶやきメモ」を活用して自分の考えを整理して発表するなどの姿が見られた。中学部では、友達と一緒に考えたり自分の言葉で伝えようとしたりする姿が増え、活動を通して「何を伝えるか」を意識して話す力が高まり、自分の気持ちを他者に伝える姿が増えた。高等部では、作業学習の目的や意味を理解し、自分の役割を果たそうとする姿が見られたなど、児童生徒の「主体的に学びに向かう姿」を具体化することができた。

一方、特定の学習場面で主体的に学びに向かう姿が見られても、他の学習場面で生かされている例は限られており、学んだことや身に付けた力が他の学習場面に十分に応用・一般化されていない点が課題として挙げられた。

これらのことから、児童生徒の「主体的に学びに向かう姿」を基盤としつつ、学んだことや身に付けた力を他の学習場面や日常生活へと学びをつなげることができる児童生徒の姿を目指していくことを確認した。

(3) 社会的要請

特別支援学校教育要領・学習指導要領総則編（幼稚園・小学部・中学部）では、児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることが示されている。また、第四次秋田県特別支援教育総合整備計画では、「将来を見据えたキャリア教育の充実」と「生涯学習の推進」が重点施策として掲げられており、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を育てていくことが求められている。

こうしたキャリア発達や生涯学習を考える上で、「本人主体」、「当事者意識」といった気持ちを育てていくことや、「こうありたい」、「こうなりたい」といった「思い」や「願い」を基点に教育の在り方を考えていくことが重要であると考えられる。

以上、過年度の研究成果と課題、目指す児童生徒像、社会的要請等を踏まえ、研究主題を「児童生徒の学びをつなぐ授業づくり～児童生徒の『思い』や『願い』を踏まえて～」と設定した。

2 研究の目的

児童生徒の「主体的に学びに向かう姿」を基盤とし、一人一人の「思い」や「願い」を踏まえた学びをつなぐ授業づくりに取り組む。その中で、学んだことや身に付けた力を他の学習場面や日常生活へと学びをつなげていく児童生徒の育成を目指す。

3 研究仮説

児童生徒一人一人の「思い」や「願い」を踏まえ、児童生徒の実態や興味・関心等を丁寧に把握し、教科等の視点から「何を学ぶか」を整理したり、学習評価の視点から「何ができるようになるか」を明確にしたりした学びをつなぐ授業づくりを行うことで、児童生徒は学びを自分事として捉えることができるのではないかと考えられる。その結果、自ら学んだことや身に付けた力を他の学習場面や日常生活へとつなげていく姿が見られるのではないかと考えられる。

4 研究の内容と方法

(1) 学びをつなぐ授業づくり

児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえた学びをつなぐ授業づくりを行う。

- ①「学びをつなぐ」ということの共通理解
- ②児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化
- ③学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善の推進

(2) 「何を学ぶか」の明確化

児童生徒の実態等を踏まえ、教科等の視点から「何を学ぶか」を整理したり、学習評価の視点から「何ができるようになるか」を明確にしたりする。

- ①ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の検討
- ②年間指導計画を活用した意見交換（ミニ教育課程検討委員会・学部研究会）
- ③ツールの効果的な活用方法の検討

※「見取り」の継続

過年度の研究成果である「見取り」の方法を生かした授業づくりを継続する。その際、「見取り」のポイントの明確化と共通理解を図るために、見取りのガイドブック「みどりのみとり」を活用し、教師間で共通理解を図る。

5 研究計画

月	日	会議・ミーティング等	内 容
4	22	研究推進委員会 1	前年度の成果と課題、今年度の研究の方向性について確認
5	2	研究全体会 1	今年度の研究についての共通理解
	8	学部研究会 1	学部研究の方向性の確認
		ふらっとミーティング 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元構想シートを活用した児童生徒の実態等の共有 ・ 単元構想や授業づくりの意見交換 ・ 「学ぶ内容」の検討
21	ミニ教育課程検討委員会 1	年間指導計画を活用した目標や指導内容の確認・情報交換	
6	18	ふらっとミーティング 2	授業の進捗状況の確認と意見交換など
7	3	指導主事計画訪問	研究説明、授業提示
	18	職員研修会 1	総合教育センター学校支援講座 「一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善」
	28	ふらっとミーティング 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進捗状況の共有 ・ 児童生徒の学習状況等の共有 ・ 抽出児童生徒の選定 など
8	22	学部研究会 2	・ 学部研究の方向性の確定
9	1	研究推進委員会 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の進捗状況の確認 ・ 各学部研究の方針の確認 ・ 全校授業研究会の方針等の確認 ・ 学習指導案の様式等の検討
	9	研究全体会 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部研究、全校授業研究会の方針の確認 ・ 学習指導案の様式等の提示
	17	ミニ教育課程検討委員会 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の実施状況の共有、2学期の展開についての意見交換 ・ 年間指導計画の様式と活用について意見交換
11	18	全校授業研究会 1	小学部 4・5年生 生活単元学習
12	4	全校授業研究会 2	中学部 1年生 生活単元学習
	10	全校授業研究会 3	高等部 3年生 職業 B グループ 職業科
	23	職員研修会 2	総合教育センター学校間連携事業 「校務や授業に役立つ生成 AI 活用」
1	13	ふらっとミーティング 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びをつなぐ授業づくりの評価 ・ 抽出児童生徒の変容等の確認・評価
	15	ミニ教育課程検討委員会 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 8 年度の教育課程について ・ 年間指導計画の様式や活用について
	16	学部研究会 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の研究のまとめ（成果と課題） ・ 次年度に向けて
2	9	研究推進委員会 3	今年度の研究のまとめと次年度の研究の方向性の確認
	25	研究全体会 3	今年度の研究のまとめと次年度の研究の方向性の共有
3	13	研究紀要、研究報告発行	

※学部研究会 3
全校授業研究会に向けた指導案検討を実施
日程は各学部で調整

6 研究の実際

(1) 学びをつなぐ授業づくり

① 「学びをつなぐ」ということの共通理解

「学びをつなぐ」ということについて菊地(2021)は、各教科等における三つのつながりとして、以下のように述べている。

各教科等の指導においては、「これまで」「いま」「これから」という時間的な視点を踏まえ、三つの「つながり」を意識した指導が重要である。一つ目は、各教科等内のつながり（単元内・単元間、年間指導計画内、学年間）、二つ目は、各教科等間のつながり（指導内容を関連付け、教科等横断的に活用する場面）、三つ目は、学んだことを具体的に生かす場面とのつながり（各教科等を合わせた指導や現場実習、行事等や部活動、実生活など）の中で、学びを実際の行動や経験へと結び付けていくことである。

この三つの「つながり」を参考に、第1回研究全体会で「学びをつなぐ」ということについて、各教科等内のつながりを「学びの積み重ね（縦のつながり）」、各教科等間のつながりを「学びの広がり（横のつながり）」、そして、学んだことを具体的に生かす場面とのつながりを「学びの活用（将来とのつながり）」の三つに分けて提案した。

しかし、単元構想や授業づくりなどの実践を進めていく中で、提案した三つの言葉の捉えや区別の仕方に難しさがあるといった声があった。このことを受け、研究部での話し合いや各学部のふらっとミーティング、学部研究会で検討を重ね、より簡潔で児童生徒の姿をイメージしやすいように、「学びの広がり」と「学びの活用」をまとめ、「学びの広がり・活用（横のつながり）」とし、表1のように二つに整理した。

これにより、研究主題が目指す「学びをつなぐ」の方向性が明確になり、本研究が児童生徒の今の学びが将来につながるということを示すことができたと考える。

表1 「学びをつなぐ」の捉え

学びをつなぐ		どこで
ア 学びの積み重ね (縦のつながり)	児童生徒の学びや経験を積み重ねていくことで、基礎的な力を育むとともに、成功体験や自己有用感を高める。	授業内でつなぐ 単元・題材内、または単元・題材間
イ 学びの広がり・活用 (横のつながり)	児童生徒が学んだことを他の学習場面や日常生活などの様々な場面に広げたり、学んだことを活用したりすることで、自分らしく生きる力や自己決定力を育む。	他の学習場面や具体的な場面、日常生活 例：現場実習、家庭生活等

② 児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

児童生徒の学びをつなぐためには、学ぶことと自己の将来とのつながりに見通しをもたせることが重要である。学びのつながりを実現するためには、児童生徒の「思い」や「願い」を把握し、それを授業に反映させていくことが必要である。児童生徒の実態によっては、「思い」や「願い」を言語化できる場合もあれば、言葉で表現することが難しい場合もある。また、好きなことや得意なことがはっきりしている場合もあれば、興味が芽生え始めたばかりの場合もある。こうした幅広い児童生徒の実態に合わせて、各学部で「思い」や「願い」の把握の仕方や把握した「思い」や「願い」をどのように具体化、可視化、共有化すればよいかについて検討を行った。

小学部では、児童の実態から自分の言葉で「思い」や「願い」を表現することが難しい児童が多いことから、普段の学校生活の様子を見取り、児童の好きなことや得意なことなどを担任間で十分に話し合い、共有する場を設けた。また、保護者アンケートを実施し、「思い」や「願い」についての情報を提供していただき、保護者面談等で話題にして保護者と共有するようになった。

中学部では、生徒との個別面談を実施するとともに、日常生活や授業の様子を見取り、教師間での

話し合いを通じて共有した。

高等部では、キャリアノートを活用した。キャリアノートの作成の際には必ず教師との面談を行い、対話を通して「思い」や「願い」を具体的に考えるようにした。また、把握した「思い」や「願い」については教室に掲示したり、作業学習日誌に貼り付けたりして作業担当の教師も確認できるようにした。

③学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善の推進

児童生徒の見取りや個別面談、キャリアノート等の活用を通して、児童生徒の「思い」や「願い」を把握し、ふらっとミーティングでどのような力を身に付けさせたいか等を話し合い、単元構想や授業実践につなげていった。

また、今年度は、授業研究会の事前授業研究会は実施せず、各学部で「ふらっと授業参観¹」を2回実施し、授業づくりや指導方法の在り方について継続的に検討・改善していくこととした。

1回目のふらっと授業参観では、今後の授業づくりへのヒントが得られるように、授業者が事前に「見てほしいポイント」を示し、参観者はそのポイントを意識して授業参観をし、短時間でも的確なフィードバックができるようにした。このフィードバックを受け、その後の学習指導案作成に生かすことができた。2回目のふらっと授業参観では、1回目の参観時から授業がどのように変わってきたか、また、抽出児童生徒がどのように変容したかを「見取る」という点に焦点を置いて実施した。

このような形で継続的に組むことにより、授業の進度や児童生徒の学びの積み重ねに応じて学習内容や支援の工夫などについて段階的、かつ柔軟に検討・改善していくことができた。

今年度の授業研究会、ふらっと授業参観等の計画は、次のとおりである。

学部・学年	小学部4・5年生	中学部1年生	高等部3年生 職業Bグループ
研究対象授業	生活単元学習	生活単元学習	職業科
指導助言者	長崎雪子指導主事	高橋亜希子主任指導主事	進藤拓歩指導主事
ふらっと 授業参観	9月 2日 (火)	10月23日 (木)	10月31日 (金)
	11月13日 (木)	11月25日 (火)	11月28日 (金)
全校授業研究会	11月18日 (火)	12月 4日 (木)	12月10日 (水)
単元・題材名	屋台だ！わっしょい！② ～小学部のみなさん いらっしやい！～	中1カフェIV ～先輩たちを招待しよう～	夢の実現に向けて
			
授業者	T1 加賀美砂子、他2名	T1 笹渕理恵子、他4名	畑山拓

※詳細はⅡ学部研究に記載

¹ ふらっと授業参観は、授業研究会の前に10分程度、誰でも気軽に授業を参観できる機会として設けている。抽出児童生徒の学習の様子や授業全体の様子について事前に把握し、授業研究会での協議につなげることを目的としている。

(2) 「何を学ぶか」の明確化

①ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の検討

昨年度の成果を生かし、今年度もふらっとミーティングを実施した。ふらっとミーティングは多面的・多角的な視点から見取った児童生徒の姿を教師間で共有し、そこからチームで単元構想や授業づくりに取り組むことを目的としている。ミーティングには授業者のみならず、学部所属の教師も含めたグループを編成し、実施した。

ふらっとミーティングの計画は、以下のとおりである。



【5月のふらっとミーティング】

月 日	ミーティング	形態	内容
5月8日(木)	ふらっと ミーティング1	学部	<ul style="list-style-type: none"> 単元構想シートを活用した児童生徒の実態等の共有 単元構想や授業づくりの意見交換 「学ぶ内容」の検討 →年間指導計画の作成へ
6月18日(水)	ふらっと ミーティング2	学年	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進捗状況の確認と意見交換など
7月18日(金)	(職員研修)	全校	<ul style="list-style-type: none"> 「一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善」 年間指導計画を活用した授業に関する意見交換
7月28日(月) 夏季休業中	ふらっと ミーティング3	学部	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進捗状況の共有 児童生徒の学習状況等の共有 抽出児童生徒の選定 など
1月13日(火) 冬季休業中	ふらっと ミーティング4	学部	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画を活用した「学ぶ内容」の評価 抽出児童生徒の変容等の確認・評価

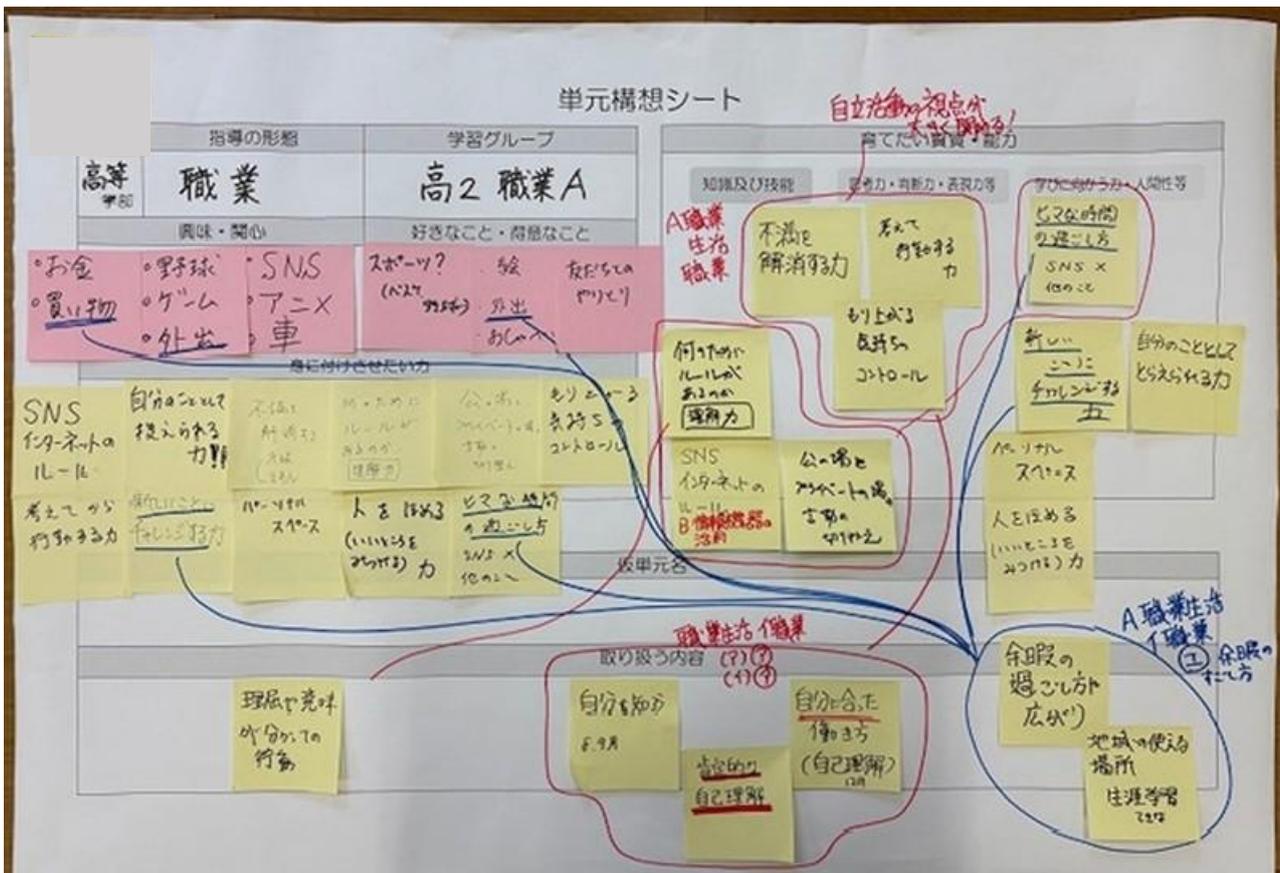
今年度は、教科等の視点を踏まえて単元や題材で「何を学ぶか」を整理し、単元構想や授業づくりに取り組んだ。ふらっとミーティング1～3では、単元構想シートを活用して「何を学ぶか」の明確化に取り組んだ。初めに、児童生徒の興味・関心、好きなこと・得意なこと、そして身に付けさせた力などを教師間で共有し、それらを育てたい資質・能力を三つの柱ごとに整理した。次に、その資質・能力を基に仮の単元を設定したり、扱う教科の内容について意見を出し合ったりした。これらの過程においては必ず学習指導要領を確認することとした。手順は図1のとおりである。

また、ふらっとミーティングに加え、7月18日の総合教育センターの学校支援講座を活用した「一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善」の職員研修会を行った。この研修では、各学部の研究対象学習グループの年間指導計画を活用し、夏季休業明けに行う予定としている次の単元構想についてイメージを共有し、児童生徒の学びをより高められるように「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から意見交換を行った。

このように、授業者のみならず、多角的・多面的な視点を取り入れられるように様々な形で単元構想や授業づくりを発展的に実施することができた。



【7月の職員研修】



【実際に活用した単元構想シート】

②年間指導計画を活用した意見交換（ミニ教育課程検討委員会・学部研究会）

ミニ教育課程検討委員会は教務部が主催し、作成途中の年間指導計画を活用して、単元や題材の目標や主に指導する内容の確認、情報交換を行うとともに、学部を超えた授業のつながりについてアイデア等を出し合い、各学習グループの単元、題材計画や授業に生かすことを目的として行った。



【ミニ教育課程検討委員会の様子】

また、小学部では、複数回の学部研究会を設定し、年間指導計画を用いて生活単元学習の授業で指導する教科の目標や内容を確認した。

中学部では、「年間指導計画を見合う会」を設定し、各学年の生活単元学習の中心単元において指導する教科の目標や内容を確認し、その後、学部全体で共有する機会を設けた。

高等部は、研究対象授業が職業科であるため、指導する内容が教科の視点で整理されているか、また題材として設定した内容が教科の目標や内容と整合性があるかなどについて確認した。

③ツールの効果的な活用方法の検討

年間指導計画については教務部、学習指導案、単元構想シートについては研究部が中心となって様式や内容の検討に取り組んだ。

学習指導案については、教科等の視点や学習評価の視点を意識できるように様式の変更を行った。また、それと併せて「学習指導案作成の視点」を作成し、教師間で共有し、共通の視点をもって学習指導案を作成することができるようにした。

※「学習指導案作成の視点」はP50、51に掲載

II 学部研究

小学部の取組

1 学部研究の重点

- ・児童の「思い」や「願い」を把握するための丁寧な見取り、聞き取り
- ・児童の「思い」や「願い」を基にした中心単元の設定
- ・各学級から1名児童を抽出。その姿の見取り、授業改善

2 重点設定の理由

小学部段階では児童が自分の「思い」や「願い」を言葉で表現することが難しい場合が多い。そのため、身近な教師が普段の様子から「好き・嫌い」や「得意・苦手」「やってみたい・やりたくない」などの児童の「思い」や「願い」を見取ったり、保護者から家庭での様子などについて情報を得たりすることが重要である。また、児童が主体的に学びに向かい、学びをつなぐためには、児童の興味・関心を生かし、「思い」や「願い」を基にした単元を設定する必要があると考えた。

以上のことから今年度は単元を通して児童の姿を継続して見取り、手立ての有効性を検証したり、他の学習場面での姿を見取ったりすることで「学びのつながり」を確認することができるのではないかと考え、重点を設定した。

3 研究の実際

(1) 児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

普段の学習の様子を見取り、担任間で十分に話し合いを行って共有した。また、全児童を対象として、保護者に余暇時間の過ごし方や好きな遊びなどのアンケートを取り、児童の「思い」や「願い」についての情報を提供していただき、保護者面談等で話題にした。

(2) ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の整理・確認・検討

ふらっとミーティングは、担任に加え、担任以外の教師も加えたチームで児童に身に付けさせたい力について意見を出し合ったり、学習指導要領を見ながら育てたい資質・能力を整理したり、扱う教科の目標や内容を確認したりした。また、長期休業中には、学級での取組、支援の方法や抽出児童の変容などについて情報交換を行った。

(3) 学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善

- ・単元構想シートの作成時には、担任以外の教師も加えたグループで話し合いを行い、教科等横断的な視点での意見を交換した。
- ・ふらっと授業参観に加えて、学部授業研究会を実施し、抽出児童について複数の教師で見取りを行い、身に付けさせたい力の吟味、支援の有効性の検証を行った。それを受けて支援の改善や学習内容の追加などの授業改善を行った。また、他の学習場面での児童の姿から「学びのつながり」を見付けて教師間で共有した。

小学部4・5年 生活単元学習

「屋台だ！わっしょい！②小学部のみなさん！いらっしやい！」

授業について

自分たちで楽しんできた「射的」と「金魚すくい」の二つの屋台に小学部の友達を招待することに期待感をもち、開店準備や接客練習に友達と協力したり、自分から取り組んだりすることを目指した。一層楽しめる屋台にするために、自分たちの頑張りポイントを考え、振り返りながら開店準備をした。本時は、各屋台の看板の制作を行った。主に取り扱う教科は、「小学部生活科2段階 カ役割 (ア) (イ)」、3段階 カ役割 (ア) (イ)、「小学部国語科3段階 ア言葉の特徴や使い方 (カ)」、「小学部図画工作科2段階 A表現 ア (ア) (イ)」である。

抽出児童について

- ・自分の世界に入ると全体指示を聞くことや、言葉だけの指示を理解することが難しい。
- ・一人遊びを好むが、友達の誘いを受け入れたり簡単なやり取りをして遊んだりすることがある。
- ・繰り返し取り組むことで見通しをもち、準備物や手順などに気付いて進めることができるようになってきている。



授業研究会から

授業研究会では、参観者が見取った抽出児童の言動を基に、互いの解釈を共有し、「次につながるキーワード」をまとめた。また、授業全体を通して学びをつなぐために有効だった手立てと、今後の授業等につなぐ意見交換を行った。 ※以下各グループのワークショップからの抜粋



○「次につながるキーワード」

- ・全員で目指すゴールの強調（何のために・誰のために）
- ・友達とやりとりするための教師の言葉の精選

○「学びをつなぐために有効だった手立てと今後の授業につなぐキーワード」

- ・動画の活用（視覚的、聴覚的に有効なもの）
- ・相手の様子を見ながら活動できるペアリング

【指導助言】 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 長崎 雪子氏

○授業全体について

- ・授業の始まりの掛け声、屋台の模型、大きく鮮やかな看板など、学習への期待をもつ仕掛けがたくさん見られた。
- ・招待するお客さんが喜んでくれることを目指して、丁寧に取り組んでいる様子が見られた。

○抽出児童について

- ・友達との関わりについてどのように思い、願っているのか。「〇〇さんと話したい」などと願い、自然な形で関わることができるように。社会に出てから人と関わり合う豊かな生活へつながるように、小、中、高と積み重ねてほしい。

○学部研究について

- ・単元構想の話合いや抽出児童の見取り、授業改善、学びのつながりを見つけるなど、学部全体で取り組もうとする意識が高いと感じた。今後も複数の目で見取ったことを丁寧に分析し、整理することでよりよい授業改善を期待する。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと児童の変容）

○友達とやりとりする経験と、相手の様子を見ながら活動できるペアリング

教師の支援を減らし、児童の力で進められるよう見守った。金魚すくいの準備の際、同じグループの友達が気付いて準備し始めると、Aも急いで準備に加わるようになった。グループの友達と役割分担をして準備を進める方法が定着し、友達が読み上げるチェックリストの項目を集中して聞き、準備も早くなった。

屋台では、Aの役割を「景品を取ったらベルを鳴らす」と具体化、明確化することで、お客さんの動きに注目できるようになった。更に、取った景品を見て、Aがすぐに「（景品）をお願いします」と同じグループの友達に伝えられるようになった。また、ルール説明の仕方を改善していく中で、友達がAに対して、手を差し出すジェスチャーをしながら「こちらです」と話せばいいのではないかと実際にやって見せながらアドバイスをした。Aはその場で理解し、接客の中で、タイミングよく手を差し出したり、話したりできるようになった。最後の振り返りでは、友達が「声が大きかった、みんなよかった」とグループの仲間を褒めた発表を聞いて笑顔になった。

授業以外の場面では、休み時間にAが自分から「〇〇さん、〇〇さん、昼休み、走ろう（鬼ごっこしよう）」と誘うようになるなど、友達の様子を気にする発言や、関わろうとする姿勢が育ってきている。



○ゴールを設定し、繰り返し取り組む経験

小学部の友達を計4回、屋台に招待した。開店に向けて、毎回、自分の「頑張りポイント」を決める活動を設定した。友達が頑張りポイントを決め、発表する姿を見て、Aも接客練習の中で受けたアドバイスを思い出し、「(景品を)両手で渡す」と目標を話すことができた。

開店時には、自分から「どうぞ。ありがとうございました」と両手で景品を持ち、手渡せた。動画を活用しての振り返りでは、自分の接客の様子を見て「両手で渡した」とうれしそうに話した。また、景品を袋に入れている間に、お客さんが受け取る前に立ち去ってしまう様子を動画で見た。「どうすればいいかな」という問いから、「少々お待ちくださいと言う」という目標を考えた。実際の場面では、お客さんの名前を呼び掛けた後、手の動きを添え「少々お待ちください」と話せた。

前時の振り返りを次時の導入で生かすことに繰り返すことで、自分で決めた頑張りポイントに気を付けて接客できるようになり、「うまくできた」と実感し、友達や教師に認められる喜びを感じ取っていた。



(4) ツールの有効的な活用方法の検討

小学部では、単元構想シートを基に、抽出児童の「興味・関心」や「育てたい資質・能力」をまとめる「つなぐシート」(P12 図1)を作成し、中心単元の学習場面で変容した姿を見取ったり、その姿から手立ての検証を行ったりした内容を記録した。また、抽出児童の変容や他の場面で見られた姿についても記録した。

4 学部研究のまとめ

(1) 成果と課題

○年度初めの保護者アンケートや担任間での話合いで児童の「思い」や「願い」を把握、共有したことで、児童の興味・関心を生かした単元を設定、実践することができた。

○各学級で1名抽出児童を設定し、年間を通してその姿を追うことで、中心単元以外の場面で「学びのつながり」の姿を見ることができた。また、手立てについて話し合い、有効性を検証することができた。

▲抽出児童の変容により、他の学習場面や生活場面で「学びのつながり」を見付けることができたが、次年度はより「つながり」を意識した授業づくりに重点を置いて行っていきたい。

(2) 今後に向けて

各学級の学習内容や支援方法、抽出児童の変容などについて話し合う「エピソードトーク大会」を行った。各学級の実践や児童の変容、「学びをつなぐ」ために有効だった手立てについて共有した。

学びをつなぐ授業づくりのポイント (案)

①活動に見通しがもてるような工夫

- ・繰り返しの活動、スケジュール表の提示、教師の示範、完成予定模型、写真や動画などの視覚的な教材

②安心して取り組むことができる環境の設定

- ・他の児童と活動場所を変える、少人数のグループ、教師と1対1、児童に合った活動(役割)の設定など

③意図的な関わりの場面の設定

④授業の振り返りと次時の導入を関連させる工夫

4年 A 	・好きなこと ・得意なこと ・嫌いなこと ・苦手なこと	・一人遊びが好き ・いす取りゲーム、かるたなどの勝敗がある遊びが好きで友達と楽しめるようになった。勝ちたい気持ちが強く、負けることが嫌い ・全体への話を集中して聞くことが苦手 ・自分の思いを伝えることが難しい
	・伸ばしたい力 ・身に付けさせたい力	・やるべきことが分かって、自分から取り組む ・友達に自分から声を掛けて、役割を進める ・経験したことを基に、選択肢から選んだり、感じたことや思ったことを話したりする
	・これまでの取組	・事前に個別に注意を促すと、全体への指示を聞くことができるようになってきた ・宿泊学習の事前・事後学習において、感じたことや思ったことを、選択肢を伝えると話した

生活単元学習 『屋台だ！わっしょい！』

<p>学習場面で見られた姿</p> <p>姿 お客さんが射的をした後、次のお客さんのために他の友達が準備し始めても、座っている。教師に促されて、手伝う。</p> <p>見取り 周囲の友達が気付いてすぐにやってしまうので、自分の役割という意識が乏しかったのではないかな。</p>	<p>手立ての改善と その後の姿</p> <p>改善した手立て 店長として、一人で射的の屋台を運営するようになった。 繰り返し取り組み、本人だけでなく、友達のよいところも称賛し、どうすればよいか気付けるようにした。</p> <p>姿 射的の準備の場面で、的となるコップを探し、見付けると「あったよ」と友達に声を掛けた。 お客さんの動きに合わせて、射的の銃を渡したり、「おめでとうございます」と声を掛けたりするようになった。</p>	<p>他の場面で見られた姿 (他の学習、休み時間、給食、家庭など)</p> <p>生活単元学習（屋台の看板作り）～友達と協力して作る場面を設定した。繰り返し取り組む中で、友達の進み具合を見て、友達のために隙間を空けたり、「いい？」と友達に声を掛けたりするようになった。 生活単元学習（小学部のお友達を屋台に招待）～友達が頑張りポイントを発表するのを手本として見てから、頑張りポイントを発表するようにした。接客の動画をヒントにし、次に頑張るポイントに気付いて発表することができた。その後の接客の場面で、両手で渡すことや、言葉を添えることなど、自分で気付くことができた。 日常生活の指導～挨拶の際、立ち止まることや、相手の顔を見ることなど、よりよい挨拶のポイントを伝え、練習の様子を動画で振り返る場面を設定した。できるようになったことを称賛したり、何度か練習し、動画を見比べることで、よりよい挨拶の仕方が分かり、翌日の朝から気を付けて挨拶できるようになった。今のところ、習慣として身に付いている。 休み時間～友達と関わって遊ぶことを楽しみにするようになった。自分から追いかけっこやトランプに誘うようになった。</p>
---	--	---

●次年度へ向けて（できるようになったこと・もっと伸ばしたい力 など）

- ・繰り返し取り組んだり、具体的ながんばりポイントを決めたりすることで、自分のやるべきことが分かって取り組むことが増えた。また、友達と関わる場面を意図的に設定したことで、友達と関わる楽しさを感じ、一緒に遊ぶことが増えた。
- ・先生の指示や友達のアドバイスが分かって取り組む。
自分の役割（準備から片付けまで）に自分から取り組む。
教師の質問をよく聞いて答える。
話を聞こうとする態度を身に付ける。

【図1 つなぐシート】

中学部の取組

1 学部研究の重点

生徒の「思い」や「願い」を生かし、教科等の内容を踏まえた生活単元学習の実践

2 重点設定の理由

生徒の「思い」や「願い」を授業へ生かすための手立ての検討や、「職業・家庭科」の内容を押さえた学習計画の工夫を中心に授業づくりを進めることで、生徒が現在の学習とこれからの生活や社会との関わりに向けて、学びをつなぎ、主体的に学びに向かう姿を育むことができるのではないかと考え、重点を設定した。

3 研究の実際

(1) 生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

学校生活や授業場面での対話や活動において、生徒の「思い」や「願い」を把握した。授業の中では生徒が行き先を決める場面や、やりたいことや役割の選択などをする場面の設定、「～したい」という「思い」や「願い」を実現するためにはどうすればよいか、どんな方法があるのかなどを考える場面を授業に取り入れた。また、年度初めの保護者面談前に生徒と個別に面談をする機会を設定することで、生徒の「思い」や「願い」を保護者とも共有できるようにした。

(2) ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の整理・確認・検討

昨年度の取組を継続し、単元構想シートを用いて生活単元学習の中心単元について話し合った。生徒の興味・関心や身に付けさせたい力について意見を出し合い、それらを「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱ごとに整理し、そこから各学年の中心単元を設定していった。

1年生を例に挙げると、身に付けさせたいこととして「役に立つ経験」「自己肯定感を高める」「感謝される・感謝する経験」「仲間と協力」「自己理解」などが挙げられた。これらを単元構想シートを用いて三つの柱ごとに整理し、単元で学ぶ内容について共通理解を図った。また、生徒の「絵を描くことが好き」「パフォーマンスすることが好き」「料理を作るのが好き」などの興味・関心を踏まえてどのような学習内容が考えられるか検討し、中心単元「中1カフェ」を設定した。

「中1カフェ」で取り扱う「職業・家庭科」の内容については、【職業分野】A職業生活 ア働くことの意義 1段階（イ）意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと」生徒によっては2段階の「意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること」に設定した。

本校の中学部の生活単元学習は、各学年の中心単元と進路単元の大きく二つの単元から構成している。生活単元学習の年間指導計画の中で、「職業・家庭科」の内容をどのように配列していくかを確認し、中心単元と進路単元の内容を関連させ、往還しながら学んでいくことが重要であることを共通理解した。また、1年生から3年生までの年間指導計画を見合うことで、3年生の学習内容を参考に2年生の進路単元を再検討したり、進路単元のつながりを見て1年生で育てたい姿をイメージしたりする機会になった。

(3) 学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善

夏季休業中に、4月からこれまでの中心単元を振り返り、単元構想シートに活動内容や、育てたい資質・能力を追記し、今後の学習内容について検討した。1年生の「中1カフェ」は、年間5回の小単元を設定し、準備からカフェ開店・振り返りまでの学習を繰り返し設定している。6月に地域のカフェを実際に利用し、教師が示したカフェづくりのポイントを基に見聞きしたことをまとめ、自分たちのカフェに取り入れた。カフェを開店することができた体験を踏まえ、次の単元では「招待する2年生の先輩に喜ばれるカフェにしたい」という思いを実現するために、レベルアップの視点をもってもう一度カフェに行き、カフェづくりのポイントを自分たちで見付ける活動を設定することにした。カフェを利用して気付いたことや、店員さんにインタビューしたことを出し合い、「いいね！ポイント」（カフェづくり

で大事にすること)として毎時間共通の目標として掲げ、その中から各グループが目標を決めて活動に取り組んだ。生徒が体験から得た気づきを全体の目標に掲げることで、カフェの中での自分の役割に気付いて、意欲的に取り組む姿が見られた。

● ● ● 中学部 1 年 生活単元学習 「中 1 カフェⅣ～先輩を招待しよう～」

授業について

カフェの開店に向けた活動の中で、話し合いや制作、接客練習などを通して、自分の役割を果たすことの大切さに気付いたり、カフェと一緒に開店させる友達やカフェの客など、自分以外の人のことを考えて活動したりする姿を目指した。本単元は、生徒からの希望のあった2年生を招待し、先輩に喜ばれるカフェにするための「いいね!ポイント」を見付けながら、キッチン、ホール、デザインの3グループに分かれて開店準備をした。

主に扱う教科は、「中学部職業・家庭科【職業分野】A職業生活 ア働くことの意義」「中学部社会科 ア社会参加ときまり」である。

抽出生徒Bについて

- ・懐メロやお笑いが好きで、周りを楽しませようと自分から友達や教師と関わろうとする。
- ・人の意見を受け入れることが難しくなると、反対の意見を言って集団を混乱させたり、不安にさせたりすることがある。
- ・リーダーになりたい思いがあるが、リーダーの役割への理解が不十分なところがあり、自分本位に進めてしまうことがある。



授業研究会から

授業研究会では、参観者が見取った抽出生徒の言動を基に、互いの解釈を共有し合って、「次につながるキーワード」をまとめた。また、授業全体を通して学びをつなぐために有効だった手立てと、今後の授業等につながる意見交換を行った。 ※以下各グループのワークショップからの抜粋



○「次につながるキーワード」

- ・ 試行錯誤する経験、機会
- ・ 経験(校外学習、国語・数学等)→試行錯誤による再評価
- ・ 考えを深める二度目の問い
- ・ 分かりやすい問い掛け→考える時間と安心感
- ・ 安心感がもてる活動、スモールステップ
- ・ 積み重ねると少し難しい課題

○「学びをつなぐために有効だった手立てと今後の授業につながるキーワード」

- ・ 自分の意見が形になる経験が自信を育む
- ・ 安心して考えられる学習環境
- ・ 関わりの必然性
- ・ 数学科の生活への応用
- ・ 気づきを促す視覚支援の充実
- ・ ペアでのレシピ作成と試行錯誤

【指導助言】 秋田県総合教育センター支援チーム 主任指導主事 高橋 亜希子 氏

○授業全体について

- ・ 「先輩に喜ばれるカフェを開く」ことを生徒の共通目標として授業が展開されていた。
- ・ グループ活動では、一人一人に役割が設定されていた。自分の役割を果たすことがグループの責任を果たすこと、それがカフェ全体の成功につながっていくことを理解することで、責任感や「人の役に立っている」という有用感にもつながっていく。カフェ運営を通して、このように学びをつないでいけるよう、長期的な見通しをもった単元計画がなされていた。

- ・抽出生徒のグループでは、「同じ量・同じ味の飲み物を提供する」ことを目標としていたが、全体の目標は「先輩が喜んでくれる」ことにある。「先輩が喜ぶ」ポイントやコンセプトを確認したい。自分の好みに合わせてカスタマイズができる飲食店の提供の仕方なども参考になるのではないかな。
- ・生徒の思いを授業に生かすことについて、生徒の思いが至る場面に散りばめられていた。生徒に経験させたい学習を単元計画に沿って進めることも大切だが、単元目標からぶれずに、生徒の「もっとやってみたい」「こうすればよくなる」という思いや発信を取り上げ、試してみるなど、よい意味での方向転換も時には必要ではないか。

○抽出生徒について

- ・グループ全員が一人でレシピどおりの分量で飲み物を作れることが意図としてあった。ペアの友達が一人で作れるよう、自分の成功経験を基に、計量カップの目盛りを見やすくする工夫を伝える場面があった。
- ・ペアの友達が多めに注いでしまう場面があったが、Bが気付いてやって見せたり、やり直しを促したりしてうまくできるような関わろうとする姿も見られた。
- ・友達の取組を見守る場面が多かったが、友達のつぶやきを聞いて活動する姿も見られた。やり取り、連携等グループで取り組むよさや、育てたい関わりを整理しておけるとよい。

○学部研究について

- ・生活単元学習の意義に留意した上で、学部研究である「職業・家庭科」を中心としながらも各教科等をどのように合わせて指導していくのかを確認したい。
- ・「なぜこの教科の目標や内容を生活単元学習で扱うのか」「集団で学ぶことでどんな効果があるのか」を整理しながら研究を進めていってほしい。
- ・子どもたちが先生方と安心して、楽しみながら学ぶ姿が印象的だった。本時の目標にもあるように、気付いたことを友達に伝え合い、友達の考えや思いを聞きながら、自分たちの学校生活をよりよくしていく集団・授業づくりを今後も期待している。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと生徒の変容）

○安心感がもてる活動、スモールステップ

次時は、オレンジジュースを作る活動を行った。前時に作った希釈タイプのコーラと同じ配合になるもの、同じワークシート形式のレシピを用意したことで、ホールグループの二人とも見通しをもって活動に向かった。また、前時の学習を生かしながら、できるだけ二人で活動することを提案し、教師は見守る姿勢をとった。前時は、教師の仲立ちが必要であったレシピの記入やジュース作りでは、前回の学習を生かし、Bが分量の数字を読み、もう一人がレシピに書くことを自分たちで進めた。また、ジュースを作る役割の順番を、言葉を掛け合って決めていた。二人で活動を進めていたが、時々確認するように教師の顔を見ていた。見守られていることと、いつでも相談できる環境が、安心感につながっているようだった。

後日、欠席していた同じグループの友達にBが、自分たちの作ったレシピを見ながら、ジュース作りの分量や道具、手順について伝えていた。友達からすぐに「分かった」と応えてもらい、うれしそうにしていた。

カフェの開店日は、ホールグループの三人で、飲み物とお菓子を準備した。それぞれの役割分担や順番を自分たちで相談して決めた。友達の活動している様子を応援するように見守ったり、用意できた飲み物の受け渡しで友達と「お願いします」「はい」と、言葉を掛け合ったりするなど、自信をもって自分たちの役割を行う姿が見られた。



(4) ツールの効果的な活用方法の検討

「職業・家庭科」で学んだ内容と段階を次年度に引き継ぐために、「職業・家庭科」の目標・内容一覧を見ながら、取り扱った項目に印を付けた。次年度、年間指導計画を立てる際に、学びがつながるように学習内容を計画していく。

4 学部研究のまとめ

(1) 成果と課題

- 単元構想シートを基に、ふらっとミーティングで単元の検討、見直しを重ねたことで、生徒たちの「思い」や「願い」を生かす機会を設定することができた。
- 教科の視点から学ぶ内容を再確認し、生徒たちの目標の設定と共有を明確にして進めることができた。
- ▲学びをつなぐ学習計画や手立てについて検討してきたが、生徒自身が学びをつなぐ姿の捉えが明らかになっていなかった。

(2) 今後に向けて

- ・生徒自身が学びをつないでいくために、授業の中に目標設定や振り返りの機会を設定し、自己評価の機会を大事にしていく。
- ・単元構想シートを活用して、国語科や数学科、作業学習などを担当している教師が学びをつなげていくための情報交換の機会を設定する。
- ・生徒が「思い」や「願い」をもつことを大切にし、本物を見聞きし、憧れの気持ちや取り組んでみたいことのイメージがもてるような学習内容を設定する。

学びをつなぐ授業づくりのポイント（案）

- ①教科の内容を踏まえた連続性、発展性のある単元の設定と展開
 - ・中心単元と各教科との関連の押さえ、年間指導計画を用いた単元の配置の検討
- ②単元や本時の目標の共有と、学びを実感するための振り返り方法の工夫
 - ・目標の内容や提示の仕方の検討、振り返りの観点の共有
- ③経験したことや学習したことを活用する場や、試行錯誤する場の設定
 - ・学習経験を生かして自ら課題を解決するための視覚支援ツールの準備、経験を生かす場面や少し難しい活動の設定

高等部の取組

1 学部研究の重点

現在の自分と将来の自分をつなげて考える学びを意図的に設定し、実践していくことで生徒の肯定的な自己理解(※)を深める。

※高等部では、生徒が自分のよさを認めるとともに、苦手なことや頑張らなければならないことを受け入れて工夫したり、他者と相談して解決の方法を考えたりする等、自分を前向きに捉える力と定義する。

2 重点設定の理由

昨年度の研究において、生徒の主体的に学びに向かう姿を引き出すことができた一方で、学んだことが特定の学習場面にとどまり、他の学習場面へ学びをつなげることが不十分であったことが課題として挙げられた。また、生徒の自己評価と他者評価との間にかい離が見られたり、自信のなさや自己肯定感の低さから消極的な姿が見られたりする等の課題も明らかになった。

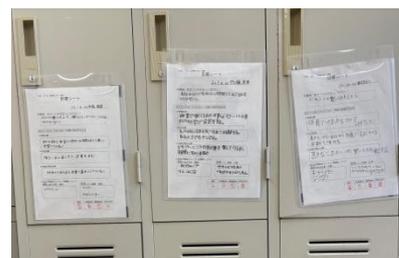
これらのことから、高等部段階においては、生徒の主体的に学びに向かう姿を土台にしながら、生徒が夢や願いの実現に向けて自ら考え、判断しながら、将来の夢に向けて学びをつないでいく力を育むことが必要であると考えた。

そこで今年度は、キャリアノートの活用を通して「これまでの自分の成長や変容」「今の思いや願い」「なりたい自分」等を具体化し、自分の成長やよさを実感するとともに、苦手なことや努力すべきこと等を受け止め、夢や願いの実現に向けて肯定的な自己理解を深めていくことを重点に設定した。

3 研究の実際

(1) 児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化

高等部では昨年度からキャリアノートを活用してきた。キャリアノートの記入に際しては、必ず担任との面談を行い、「これまでの自分の成長や変容」「今の思いや願い」「なりたい自分」等、生徒の「思い」や「願い」の把握、確認をする場を設けた。さらに、記入したキャリアノートは教室内に掲示し、いつでも確認できるようにした。



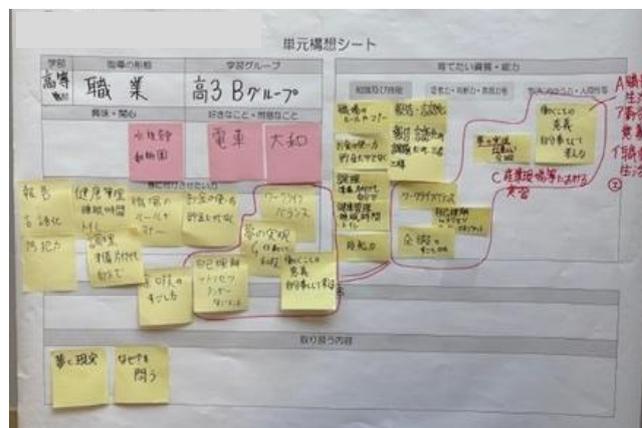
【教室に掲示したキャリアノート】

(2) ふらっとミーティングにおける学ぶ内容の整理・確認・検討

ふらっとミーティングでは、研究対象となる職業科の授業について単元構想シートを使い、学ぶ内容の整理・確認・検討を行った。

5月のふらっとミーティング1では、生徒の実態を共有し、どんな力を身に付けさせたいのかを確認したり、育てたい資質・能力の3つの柱ごとに整理したりした。また、職業科における生徒の自己理解を深めるために大切したいこととして、1年生では「やってみる」「よさに気付く」、2年生では「経験の振り返りや評価」、3年生では「苦手に気付く、受け入れる」がキーワードとして挙げられた。

7月のふらっとミーティング2では、職業科の年間指導計画を活用しながら、5月以降の学習の進捗状況や生徒の様子等を共有し、夏季休業明けの授業や単元の構想について改めて検討を行った。



【ふらっとミーティングで使用した単元構想シート】

1月のふらっとミーティング3では、今年度の職業科の授業を振り返り、生徒の変容を共有したり、生徒の学びをつなぐために有効だった「学習活動」、「教師の支援」、「教材・教具」等から確認を行い、改めて各学年段階で大切にしたい生徒の姿や視点を整理したりした。

(3) 学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善

● ● ● 高等部 3 年職業 B グループ 職業科「夢の実現に向けて」

授業について

生徒たちは、現場実習の評価やキャリアノートを活用し、自分の強みや課題を理解しているが、その課題をどう解決すればよいか分からないといった実態がある。そこで、マンダラチャートを活用し、友達や教師と課題解決に向けた意見交換することで、やるべきことを具体化し、自らの考えを深め、「これをやる」という意思形成を図りたいと考え、本題材を設定した。

抽出生徒 C について

- ・これまでの学習から、自分の強みや課題を理解している。自分の課題について自分なりに対応しようとしているが、相談することを苦手としている。現場実習の事前挨拶で一言も話せずに過ごしたこともあった。
- ・本題材に取り組み始めた頃は、なかなか自分の考えを話すことができなかった。しかし友達とのやりとりを繰り返したり、自分の考えが受け入れられたりする経験を通して、考えていることを伝えられるようになってきた。



授業研究会から

授業研究会では、参観者が見取った抽出生徒の言動を基に、互いの解釈を共有し、「次につながるキーワード」をまとめた。また、授業全体を通して学びをつなぐために有効だった手立てと、今後の授業等につなぐ意見交換を行った。 ※以下各グループのワークショップからの抜粋



○「次につながるキーワード」

- ・実践による経験の積み重ねと振り返り
- ・場面を具体的にイメージできる工夫
- ・生徒の実態に合ったアプローチの工夫
- ・課題の絞り込み
- ・活動への見通しと自信をもって取り組める活動の設定

○「学びをつなぐために有効だった手立てと今後の授業につなぐキーワード」

- ・思考するだけの活動にとどめず、実践的な活動をつなげる
- ・話しやすい雰囲気づくり、安心できるグルーピングの工夫
- ・マンダラチャート等による思考ツールによる思考の可視化
- ・「自分ならどうする?」「こんなときどうする?」等、自分事として考えられるような問い掛けの工夫
- ・ICT 機器の活用

【指導助言】 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 進藤拓歩氏

○本時の授業について

生徒たちは安心感をもって学習に取り組んでいた。協議では、1年生当時と比べて想像以上に成長しているという声が聞かれた。マンダラチャートを用いて思考を可視化する工夫や、4ますに絞って考えやすくした点が効果的であった。「職場で信用される」をテーマに、イラストやロールプレイを取り入れ、実体験に基づいて理解を深めていた。発表で使用した話し方のテンプレートは、卒業後の自立した生活にも活用できる有効な工夫であったと感じた。

○授業改善に向けて

- ・話し合い活動について
話し合いは一問一答形式に近く、即答が難しい生徒にとって負担になるのではないかと感じた。まず書く時間を確保し、その後に話すというワンクッションを置くことで、自分の考えを整理し、安心して発言しやすくなる。書くことが難しい場合は、選択肢形式やテンプレート、ICT の活用も有効である。
- ・マンダラチャートの使い方について
マンダラチャートは具体的に書くことが基本であり、「(ぐ)具体的に、(た)達成可能な目標設定、

(い) 意欲がもてる、(て) 定量化する、(き) 期日を決める、(に) 日課にする」を意識することで、達成可能で意欲につながる目標設定が図りやすくなる。

・選んだ理由の見える化

授業の終末部分で生徒が一つの意見を選ぶ際に、それまでの話合いを踏まえていたかどうかを見極めたい。例えば、複数の意見が書かれた付箋紙から一枚選ぶ際に、生徒が付箋紙を見比べているかどうかを見る等、生徒の判断のプロセスを評価できるような工夫があればよいのではないかと。

○肯定的な自己理解とキャリア教育との関連について

本授業で扱った自己理解は、職業科に限らず学校の教育活動全体を通して行うキャリア教育と深く関わり、特に特別活動が中心的役割を担う。キャリアノートは日常的に活用し、振り返りを積み重ねることで、自己理解につながる。生徒が自分の苦手さを理解するとともに、「できるようになりたいこと」や「工夫すればできること」を生徒と教師と一緒に考えてほしい。卒業を控える3年生にとって一人一人の力や経験の積み重ねを私たち教師が支えていく必要があると改めて考えさせられた。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと生徒の変容）

○場面を具体的にイメージできる工夫

Cが自分事として捉えられるように、日常生活の課題場면을教材として提示した。その結果、生徒は「自分ならどうするか」という当事者意識をもつとともに、「○○君にはこの方法が有効ではないか」と、友達立場になって考え、解決策を提案する姿が見られた。特に、友達との対話を通して得られた客観的な視点は、Cにとって新たな気付きになり、自らの課題を再定義し、実行可能な解決策を選択するためのよいきっかけになった。



友達との協同的な学びを通して、どうすればよいかを自分で考え、自分なりの解決策を見付けられたことは大きな前進であった。

○活動への見通しと自信をもって取り組める活動の設定

Cの課題の一つに、一人で買い物に出掛けることが挙がっていた。「買い物」は、普段の生活の中で保護者と一緒に出掛けたり、授業の中でも繰り返し経験を積んだりしている見通しのある活動である。今後、一人で買い物に出掛けるためにはどのようにすればよいか、また、一人で買物をする際に何が難しく、何が不安なのかといった課題の整理を行った。

「前は近所のコンビニに欲しい本が売っていたんだけど、今は売ってない…」という発言をきっかけに、休みの日に一人で本を買いに行くことを目標とし、その課題解決の方法を探った。

まず、別のコンビニや書店に行くことを考えたが、家の近所にはコンビニや書店がなく、電車を使って出掛ける必要があることが分かった。そのことを考えていく中で、以前に保護者と一緒に立ち寄った隣の駅前のコンビニのことを思い出し、そこに一人で行ってみようという気持ちが芽生えた。また、友達とやりとりをする中で、いつもの通学路とは反対の方向にも別のコンビニがあることを思い出し、そこに歩いて行くことも可能であるということに気付いた。

課題を自分事として考え、細分化していく中で、これまで経験した出来事がつながったり、「できるかもしれない」という自信になったり、自分でやってみようとする気持ちの変容が見られた。

(4) ツールの効果的な活用方法の検討

キャリアノートの効果的な活用のため、各シートの実施時期と手続きのポイントを定め、学部内で共通理解し、実施した。

キャリアノート項目	実施時期	手続きのポイント
・目標シート	①4月中旬～ ②9月中旬～	・記入前に個人面談を行う。 ・複数の教師からチェックを受け、対話の中で必要に応じて修正する。 ・完成したら教室に掲示、作業ファイルへ貼付。

・評価シート	①9月中旬～ ②3月上旬 ※高3は2月に実施	・実習外部評価等を基にして記入する。 ・複数の教師からチェックを受け、対話の中で必要に応じて修正する。
・私の未来予想図Ⅰ・Ⅱ ・私のトリセツ	後期～年度末	・時間を置いて、何度か記入する時間を設定する。1回目で全て埋まらなくてもよい。
・私の履歴書	年度末	・1年間の振り返り・記録として記入する。

4 学部研究のまとめ

(1) 成果と課題

○職業科の学習や現場実習等の経験とその振り返りを通して、生徒の肯定的な自己理解が少しずつ深まる様子が見られた。実践を通して各学年段階で大切にしたい学びをつなぐ姿や、肯定的な自己理解を深める視点を以下のとおりまとめた。

- ・1年生：新しい環境や学習の中で、理想と現実のギャップに向き合いながら、「社会人」という視点より、まずは「どんな高校生になりたいか」といった、近い将来への見通しをもち、教師との対話を通してゆっくり・じっくり自己理解を深める。
- ・2年生：経験の積み重ねを通して自分の長所や課題を自分の言葉で語り、夢の見直しや更新、具体化をしながら自己理解を深める。
- ・3年生：これまでの学びと今の学びが卒業後、そして将来へとつながっていることを自分事として捉え、自ら学びをつなぎながら自己理解を深める。

○キャリアノートは生徒の「思い」や「願い」、「なりたい自分」を把握するツールとして有効だった。

○ふらっとミーティング等の対話を通して、「何を学ぶか」の整理や授業構想の具体化に役立った。

○マンダラチャート等を使って思考を可視化し、考えを引き出したり、教師や友達と対話のきっかけにして考えを深めたりするような活動の設定や教材の工夫が有効であった。

▲キャリアノートの実施時期や手続きのポイントについて学部内で共通理解したが、意義を十分に共有し、学習の中で継続的に活用するまで至らなかった。

▲職業科の学習と生活単元学習や作業学習等の学習、家庭での生活を関連付ける視点での授業づくりが十分ではなかった。

(2) 今後に向けて

- ・キャリアノートの意義や活用スケジュールを再整理し、改めて教員間で共通理解を図る。
- ・キャリアノートに関する生徒ガイダンスを実施し、目的や意味を丁寧に説明するとともに、生徒が無理なく学びや成長を蓄積できる方法を工夫し、学びをつなぐツールとして活用する。
- ・学ぶことを自分事として捉え、自ら学びをつなぐ力を育むための授業デザインの工夫や授業実践に取り組む。

学びをつなぐ授業づくりのポイント（案）

①キャリアノートの活用の充実

- ・生徒ガイダンスの実施、様式や掲示の工夫や発表し合う場の設定

②教科等横断的な視点での授業デザイン

- ・職業科と生活単元学習や作業学習等を関連付け、実際的な活動の機会の意図的な設定

③自ら学びをつなげる授業サイクル

- ・「見通しをもつー行動するー振り返る」を意識した授業の工夫

④思考を広げる・深める工夫

- ・教師や友達との対話的な活動の設定と ICT 機器や思考ツール等を活用した思考の可視化

Ⅲ 研究のまとめ

7 成果と課題

本研究の成果と課題について、全職員を対象に実施したアンケート結果等を基に整理・分析し、次のとおりまとめた。

(1) 学びをつなぐ授業づくり

①「学びをつなぐ」ということの共通理解について

今年度の取組を通して、研究の方向性やねらいについては浸透してきた。また、「学びをつなぐ」ことの重要性や児童生徒の学びをつなげようとする意識の高まりが見られるようになった。

一方で、「学びをつなぐ」ことの具体的な姿や実践方法については捉え方にばらつきがあり、概念としては理解できていても、授業の中でどのように具現化していくかについては分かりにくさを感じている教師も多く、理解と実践の間に課題が残った。

②児童生徒の「思い」や「願い」の把握と具体化、可視化、共有化について

小学部の保護者アンケートを活用した保護者面談、中学部の教師との個別面談と日常生活や授業の様子の見取り、高等部のキャリアノートの活用等を通して、児童生徒の「思い」や「願い」の把握に取り組み、児童生徒理解を基にした授業づくりへの意識が高まりつつある。

一方で、「思い」や「願い」の捉え方や、授業へ具体化していく方法については迷いや難しさを感じている教師も多く、より具体的な把握の視点や具体化の方法を共有、検討していく必要がある。

③学びをつなぐ授業実践とチームで取り組む授業改善の推進について

ふらっとミーティングや授業研究会等を通して、チームで授業実践、授業改善に取り組む体制を整えることができた。また、授業研究会の前には、各学部で模擬授業等を行い、板書計画、児童生徒の動線、発問や支援の方法等について、具体的に検討し、授業の質の向上につなげることができた。

また、総合教育センターの指導主事と継続して連携しながら授業づくりを行うことができた。中学部では、ふらっと授業参観や授業研究会、その後の中1カフェ開店に参加していただくなど、授業改善の過程や生徒の変容について、継続して指導していただくことができた。さらに、今年度の実践を通して、各学部の「学びをつなぐ授業づくりのポイント」を明らかにすることができた。

一方で、児童生徒自らが学びをつなぐためには、学びの成果や実感、達成感を感じ、学んでいることを自分事として捉えることが大切であるということが挙げられた。

(2) 「何を学ぶか」の明確化

①ふらっとミーティングにおける学習内容の検討について

単元構想シートを活用して、児童生徒の実態等から指導すべき内容を資質・能力の三つの柱から整理し、仮の単元を設定したり扱う内容について意見交換を行ったりして指導する内容を明確にすることができた。

②年間指導計画の確認と意見交換について

ミニ教育課程検討委員会や学部研究会において、年間指導計画を基に意見交換を行うことで、学部内外における学びのつながりを意識する機会が増えた。また、年間を見通した授業構想や縦のつながりを意識した指導への意識の高まりがみられた。

③ツールの効果的な活用方法について

キャリアノート等のツールを活用することで、児童生徒の学びの方向性や学習の成果を可視化・蓄積することができた。一方で児童生徒の実態に合ったツールの工夫や検討が必要であるといった声も聞かれた。今後は、児童生徒への丁寧な説明を行うとともに、書くことに限らない ICT 機器の活用等、児童生徒の実態に応じた多様な方法について検討していく必要がある。

8 今後に向けて

今年度の研究を通して、「学びをつなぐ」という言葉や研究の方向性については浸透してきた。一方で、児童生徒が「学びをつなぐ」具体的な姿や、児童生徒の「思い」や「願い」をどのように授業実践へと生かしていくかということについては、捉え方にばらつきが見られた。今後は、児童生徒の学びが繋がった具体的な姿のイメージを共有し、改めて共通理解を深めていくことが必要である。

また、児童生徒が学びの成果や自らの成長を十分に実感し、「またやってみたい」「別の場面でも使えそうだ」「家でもやってみよう」といった前向きな思いをもって、自ら学びをつないでいく姿を引き出す授業づくりについて、今後さらに工夫と検討をしていく必要がある。

また、各学部のふらっとミーティングや学部研究会、ミニ教育課程検討委員会等を通して、教科の視点から「何を学ぶか」を明確にし、単元構想、授業づくりを進めることができた。次年度も今年度同様の取組を継続し、さらなる充実を図っていききたい。

これらのことを踏まえ、次年度は以下の3点を柱として研究を進めていく。

○次年度研究の方向性

1 研究の中心となる言葉の整理と共通理解の推進

「学びをつなぐ」ということの捉え方や、児童生徒の「思い」や「願い」をどのように授業につなげるかについて、具体的な授業場面等を示しながら共通理解を図っていく。

2 「思い」や「願い」を踏まえた授業デザインの工夫

児童生徒一人一人の「思い」や「願い」を丁寧に把握し、単元構想の段階から「学びをつなぐ授業づくりのポイント」を活用しながら、学びのつながりを意識した授業デザインの工夫を図る。

3 児童生徒が自ら学びをつなぐ力を育む授業の充実

児童生徒が学びの成果や自分の成長を実感し、学びを次の学習や他の学習場面、日常生活へと自らつなげていけるような授業の充実を図っていく。

参考・引用文献

- ・秋田県立支援学校天王みどり学園（2025）令和6年度研究紀要「共に歩む」第21号
- ・秋田県教育委員会（2023）第四次秋田県特別支援教育総合整備計画
- ・文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）
- ・文部科学省（2018）特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）
- ・文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
- ・文部科学省（2019）特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）
- ・文部科学省（2019）特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上・下）（高等部）
- ・菊地一文（2021）「知的障害教育における学びをつなぐキャリアデザイナー—本人の思いや願いを踏まえた深い学びの実 現に向けて—」
- ・キャリア発達支援研究会（2021）キャリア発達支援研究8いま、対話でつなぐ願いと学び
- ・東洋館出版（2025）特別支援教育研究 2025年4月号
- ・文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター（2023）学びをつなぐ！「キャリア・パスポート」

全校授業研究会

小学部 4、5 年

生活単元学習

中学部 1 年

生活単元学習

高等部 3 年職業 B グループ

職 業 科

小学部 第4・5学年1組 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和7年11月18日（火）

3校時（10:40～11:25）

場 所：小学部4・5年教室

授業者：加賀美砂子（T1）、草階 朋子（T2）

宇佐美朝子（T3）

1 単元名 屋台だ！わっしょい！②～小学部のみなさん！いらっしやい！

2 単元設定の理由

(1) 児童について

本学習グループは、4年生男子2名、5年生男子3名、女子1名、計6名で構成されている。5名は、簡単な言葉でのコミュニケーションができ、全体指示や、友達の様子を手掛かりに活動へ参加できる。1名は、言葉のみでの指示理解は難しいが、写真や友達の様子を手掛かりに見通しをもち活動することが増えてきた。

相手のことを考えて接することがまだ難しい児童が多いが、学級の友達と遊ぶことは全員好きである。ゲーム性の高い遊びを好むが、勝ちたい思いが強くと、ルールを守れなかったり、口調や身振りがきつくなったりすることがある。また、経験したことや興味があることを話すことが好きで、具体的な質問や、二者択一の質問に答えることができるが、考えを求められると、言葉にするまで時間が掛かったり、友達の言葉をそのまま話したりすることがある。

手指の巧緻性の面は、実態の幅があるが、個々ができることや得意なことを生かすことで、集中し丁寧に取り組むことができ、仕上がりのよさを自分で実感したり、友達や教師に褒められたりすることに喜びを感じている。これまでの生活単元学習等では、自分の役割を理解し、一人でまたは友達と順番に分担して作り進める学習を積み重ねてきている。

(2) 単元について

7月に東湖八坂神社祭典に出掛け、本物の屋台遊びを体験し、様々な屋台遊びを楽しみたいという思いを強くもった。その後、学校に戻ってからも、射的や金魚すくいなどの遊びを自分たちで楽しんだ。屋台遊びを繰り返していく中で、店員役とお客さん役を交代で行ったり、声を掛け合って屋台遊びのセッティングをしたりするようになった。屋台の運営も楽しめるようになり、自分たちでも屋台をやってみたいという意見が子どもたちから出てきた。

屋台では、お客さんの立場に立って準備物の作成や配置等を考えたり、アイデアを伝えたりする力も育める。繰り返し活動することで、自分の役割を果たすだけでなく、少しずつ、屋台のルールや友達の役割など、周囲の状況を見て自分から行動したり、気付いたことを伝えたりする力を高められるのではないかと考える。

また、屋台の準備では、個々の得意なことを取り入れながら、難易度を調節したり、がんばりポイントを明確にしたりすることで、どうすればよいか自分で考えながら進めたり、慎重に丁寧に取り組んだりする意識を高めることができると考える。

前単元で、6年生の児童を招待したところ、お客さんの動きやルールを分かりやすく伝えることなど課題はあったものの、楽しんでもらうことができ、開店の喜びにつながった。本単元では、児童がこれまで楽しんできた「射的」と「金魚すくい」の2つの屋台に分かれ開店を目指す。小学部の児童全員を招待することで、一層、お客さんが楽しめる屋台にしたいという思いをもって、友達と協力したり、自分から取り組んだりする力を育てたいと考える。

本単元（題材）は、主に以下の特別支援学校小学部学習指導要領生活科、国語科の内容を取り扱う。

<u>小学部 生活科 2段階 カ 役割</u>	
(ア)	身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする事。
(イ)	簡単な係活動などの役割について知ること。
<u>小学部 生活科 3段階 カ 役割</u>	
(ア)	様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする事。
(イ)	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
<u>小学部 国語科 3段階 内容 思考力・判断力・表現力等 ア言葉の特徴や使い方</u>	
(カ)	相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。
<u>小学部 図画工作科 2段階 A表現 ア身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形を作るなどの活動</u>	
(ア)	材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。
(イ)	身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。

(3) 指導に当たって（児童の学びをつなぐ工夫など）

児童の学びを縦・横につなぐ工夫については、以下の表のとおりである。

縦のつながり	前年度 ・ 前単元	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を招待し、屋台を楽しんでもらう機会を設定した。「看板があるといいね」などのアドバイスを受けたことを覚えており、「看板作らなきゃ」と話すようになったことから、看板作りを単元計画に組み入れた。 ・看板のデザインや景品を考える活動では、昨年学習したタブレット端末を使った検索やスクリーンショットの機能の活用を取り入れる。
	前時	<ul style="list-style-type: none"> ・接客の様子を動画で振り返ったり、即時的に気付いた改善点をメモしたりすることで、児童がどうすればよりよい接客をすることができるのか気付いたり、思い出したりできるようにする。 ・学んだことを記憶に留め置いて思い出したり、次の単元へつなげたりできるように、掲示物に写真や感じたことを表す。
横のつながり	各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら活動できるよう、友達と一緒にできる役割を意図的に取り入れる。 ・図画工作「書道アート」で取り組んだ毛筆を取り入れる。 ・児童によっては、国語科で学習していることを想起できるような言葉掛けや、手本の提示をする。

また、本単元の指導において、次のことを重点的に工夫する。

- ・児童の実態を考慮し、2つのグループに分かれて活動する。話合いの場面では、何を決めるのか明確に伝える。必要に応じて教師が仲介して発言を整理し、分かりやすく言い直したり、選択肢を示したりする。また、児童がどうすればよいか考え、工夫したり支援を求めたりしたときや、友達のよいところに気付いたときの発言を即時的に認めたり、つぶやきを復唱したり、表情やしぐさから考えを予測し代弁したりする。
- ・グループの友達と看板や景品の完成イメージを共有できるよう、模型や試作品を児童のアイデアを取り入れて作り、用意し、活用する。

3 単元の目標

- (1) 小学部の友達が分かりやすく、楽しめるポイントを理解して、開店の準備や接客練習をする。【知・技】
- (2) お客さんが楽しめる屋台にするために、必要な準備物やデザインを考えて友達に伝えたり、準備物や接客の出来栄に適切な判断をしたりする。【思・判・表】
- (3) お客さんに屋台を楽しんでもらうことに期待感をもって友達と協力して進めたり、開店を目指して自分から取り組んだりする。【学】

4 単元の指導計画（本単元の総時数 60時間 本時 13/60）

小単元名 ・主な学習活動	時数	目標	主に指導する教科
(1) 開店準備をしよう① ・誰を招待しよう？ ・好きな物アンケート ・看板・景品等のデザイン決め ・看板・景品等の作成	本時 13 / 24	・招待する人について考え、楽しんでもらいたいという気持ちをもつ。 ・これまで自分たちで楽しんできた経験などから、必要なものを考える。 ・写真や画像などを参考に、お客さんにとって分かりやすく、楽しめるポイントを理解して作りたい看板やのぼりのデザインを考えて作る。	生活 国語 算数 図画工作
(2) 開店準備をしよう② ・各屋台のルール確認 ・各屋台の進行の練習	18	・各屋台のルールについて話し合っ決めて。 ・準備や接客の際の自分の役割を覚え、気を付けることを確認しながら練習する。	生活 国語 算数
(3) 屋台やさん開店！ ・小学部の友達を招待して	20	・練習の中で出てきたポイントを理解して、友達と協力して開店準備や接客に取り組む。	生活 国語 算数
(4) 屋台やさん大成功！	2	・お客さんからの感想を聞いたり、写真や動画で友達や自分たちの様子を見て、気付いたことを話したりして、次回の開店に向けてがんばりどころを見付ける。	生活 国語

※ (1) と (2) は、適宜組み合わせせて実施する。

5 本時の計画

(1) 全体の目標

- ・看板作りで自分が気を付けることを意識しながら役割を果たしたり、友達と協力して進めたりする。

【思・判・表】

(2) 個別の実態と目標及び手立て

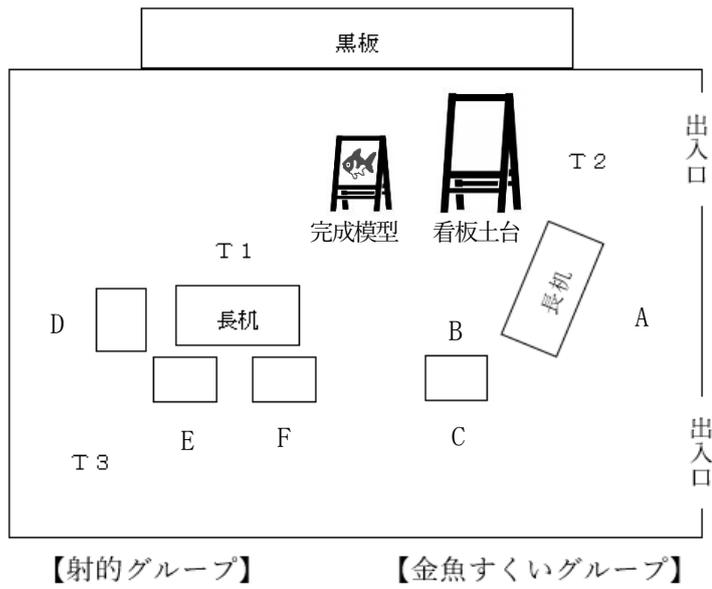
	児童名	実態	目標	手立て
金魚すくい	A 【金魚のうろこ貼り】	繰り返し取り組み見通しをもつと、準備物や手順などに自分で気付いて進められるようになってきている。活動の途中でも自分の世界に入ってしまうことがあり、教師の言葉掛けが必要なことがある。	ペアの友達と、相手の進み具合を見合いながら、うろこの色の順番や貼る位置に気を付けて金魚の飾りを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの友達と一緒に考えて進められるよう、使う道具や材料は明示しておき、教師は見守るようにする。 ・ペアの友達の進み具合に気付き順番等を配慮する様子があったら、次からも自信をもってできるように、教師が即時評価する。
	B 【金魚のうろこ貼り】	工作など、やり方が分かると自信をもち、じっくりと取り組む。こうしたらいいのではないかという思いはあるが、言葉で表現するまで時間が掛かる。自信がないと友達の意見に同調することが多い。	うろこの色の順番や貼る位置を自分で判断したり、分からなくなったときは自分から聞いたりしながら、ペアの友達と金魚の飾りを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・うろこを貼る順番が分かるよう、台紙に線を引き番号を書いておく。 ・安心して取り組めるよう、パーツやボンドが足りなくなったときは、教師に伝えるよう、事前に伝える。 ・自分から伝えられたときは、称賛する。
	C 【金魚のイラスト色塗り】	見本があると、同じくなるようバランスを見て貼ったり、絵を描いたりする。繰り返し経験していることに関する質問には、すぐに言葉が出るが、急な質問には、友達のつぶやきをそのまま答えることがある。	友達に「もう少し上」、「いいよ」などと声を掛けながら、看板の見本を見て、台紙に文字や飾りを配置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・貼る前にグループで集まり、バランスを見て友達に方向を伝えること、いいよと言われたら貼ることを教師が伝える。 ・本時の発言を待ち、よい言葉掛けができたときや、バランスよく貼れたときは、大いに称賛する。
射的	D 【飾り作り(鉄砲)】	見本があると、試行錯誤しながら同じように仕上げようとするが、パーツを順番に重ねるなど少し複雑になると難しいことがある。	見本を見て、手順や使う材料を自分で判断しながら作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・見本となる飾りの鉄砲を用意し、シールで手順を示す。 ・自分で選べるよう、銃身の素材を2種類用意する。
	E 【飾り作り(ふち飾り)】	点つなぎができる。毛筆で書くことに意欲的である。友達と一緒に、同じ活動することが好きで、友達の様子を見て取り掛かることが増えてきている。	使用する道具を自分で準備し、担当する「し」の文字を、点つなぎのやり方で書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・準備の際、友達の様子を見て自分から準備できるよう見守ったり、「見て」と指さしたりする。 ・筆で書く際は、紙に目印となる始点と終点を付け、書く前に教師と一緒に点つなぎになる。
	F 【飾り作り(的)】	自分から友達を助けようとする優しい面もあるが、言い方がきつくなったり、自分の考えに固執し、押し付けるように感じられたりすることもある。	友達がのぼりの文字と飾りを並べ終わってから、よい点と、改善点を理由を付けて話す。	<ul style="list-style-type: none"> ・よい点と、改善点があるときは理由も話すというポイントを付箋紙に書き机に貼る。 ・事前に選んだ看板のデザインをいつでも確認できるよう模型で掲示しておく。

(3) 学習過程

時間	学習活動	手立て・指導上の留意点
5	<p>1 本時のめあてと学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて がんばりポイントに気を付けて文字や飾りを作ろう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> みんなで活動をする気持ちや、活動への期待感を高めるために、日直の合図で合言葉を言う。 めあてや、本時の活動が分かるように、今日作る看板の土台と前回作った模型を提示する。 児童が、頑張ることを意識できるよう、個別のポイントは、グループに分かれてから必要に応じて伝える。
35	<p>2 グループに分かれて看板を作る。</p> <p>金魚すくいグループ</p> <p>(1) 看板の飾りを作る。 (2) 看板の文字と飾りを土台に配置する。</p> <p>射的グループ</p> <p>(1) 看板の文字を書く。 (2) 看板の飾りを作る。 (3) 看板の文字と飾りを土台に配置する。</p>	<p>【看板の文字を書く】※射的グループのみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から準備ができるよう、使用する筆や下敷き、文鎮などの道具を置く場所は一定にする。机に敷く紙に、道具を置く場所の印を付けておく。 個別の目標に応じて、担当する文字をあらかじめ決めておく。がんばりポイントに気を付けて書けたときは、十分に称賛する。 書いたものを、教室から廊下に運び出す際は、グループの友達と協力できるように見守るが、一人で困っている児童がいるときは「〇〇さん、一人で困っているね」とグループのメンバーに気付きを促す。 <p>【飾りを作る】</p> <ul style="list-style-type: none"> A、B、Cが自分たちで取り掛かれるよう、使用する道具や材料を、それぞれワゴンに乗せてまとめておく。 Fが的を作る際、自分で考えて貼るかT1が質問する。補助の印などの支援が必要だと思ったら、自分から話せるよう見守る。 Eが、同じ番号か見比べて選択していけるよう見守るが、手が止まったときは、T3が指差しをしたり、「これと同じ番号はどれですか」と尋ねたりする。 <p>【土台に貼る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金魚すくいグループが3人で考えを伝え合いながら貼れるよう、「Cに聞いてごらん」と教師が間に入りながら、AとBで位置を調整するよう促す。 Dが自信をもって貼れるよう、看板の完成予想図を掲示しておく。困ったときは、Fに聞くよう促す。
5	<p>3 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が頑張ったことを実感できるよう、「頑張りポイント」に沿った評価を端的に伝えながら、看板の当てはまる箇所に花丸カードを貼る。 児童が思ったことを言葉にしやすいう、看板のよいところや頑張ったことを児童に質問したりし、自由に話す時間を設定する。 予定表を提示し、4校時には、土台に貼り付け、看板を完成させることを伝える。

※波下線は抽出児童に対する手立て

(4) 配置図、座席表



(5) 評価

児童：自分のがんばりポイントに気を付けながら、友達と活動に取り組めたか。

教師：がんばりポイントに気を付けて活動を進めたり、友達と協力して活動したりするための教材や提示の仕方、言葉掛けは適切であったか。

令和7年度 小学部4・5年 生活単元学習 年間指導計画

【児童】6名

【指導者】加賀美砂子、草階朋子、宇佐美朝子、兜森宏征

【年間目標】

- (1) 目指すゴールに向けて、どう準備をしたらいいか、何を誰がしたらよいか、考えたり調べたりし、自分たちで活動を推し進めることができる。(知・技)
- (2) 経験したことや調べたことから、何を伝えたいかを考えたり、友達とお互いの思いを伝え合い、どうすればよいか考えたり、判断したりする。(思・判・表)
- (3) 活動に見通しや期待感をもったり、友達と一緒に新しいことに進んで取り組もうとしたりする。(学)
(週時数10時間)

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主に指導する教科と(内容)	予定 時数	実施 時数
4	○4・5年生スタート ・ぼくの、わたしの好きなこと ・プロフィールづくり ・学級目標づくり ・なかよくなろう！(風船バレー、かるた)	生活 エ遊び 2段階(ア)(イ) 生活 オ人との関わり 2段階(ア) 生活 カ役割 2段階(ア)(イ) 国語 B書くこと 2段階 ア イ	20	20
5 6 7	○宿泊学習にチャレンジ！！ ・調べ学習(日程、見学先) ・入浴練習(くらの湯校外学習含む) ・調理練習 ・しおりづくり ・結団式 ・お礼状づくり ・報告会	生活 ア基本的な生活習慣 2段階(ア)(イ) 生活 ケきまり 2段階(ア)(イ) 生活 コ社会の仕組みと公共施設 2段階(イ) 国語 イ我が国の言語文化(ア) 国語 A聞くこと・話すこと 2段階 イ ウ 国語 B書くこと 2段階 ア	55	57
7 8 9	○屋台だ！わっしょい！①～お祭りに行ってみよう！やってみよう！～ ・調べ学習(日程、屋台について) ・東湖八坂神社祭典(校外学習) ・どんな屋台があったかな？ ・屋台のゲームをやってみよう ・身近な友達を招待しよう	生活 エ遊び 2段階(ア)(イ) 生活 オ人との関わり 2段階(ア) 生活 カ役割 2段階(ア)(イ) 生活 ク金銭の取り扱い 1段階(ア)(イ) 生活 ケきまり 3段階(ア)(イ) 生活 コ社会の仕組みと公共施設 2段階(イ) 生活 シものの仕組みや働き 2段階 国語 ウ我が国の言語文化(イ) 国語 A聞くこと・話すこと 2段階 イ ウ	55	55
9	行事と季節 ○運動会をがんばろう ○学園祭をがんばろう	生活 エ遊び 2段階(イ) 生活 カ役割 2段階(ア)(イ) 国語 A聞くこと・話すこと 2段階 イ ウ 国語 C読むこと 2段階エ 3段階エ 音楽 A表現 エ身体表現の活動(ウ) 体育 A体づくり運動 2段階ウ	50	50
【指導の評価】(単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等)				

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主に指導する教科と（内容）	予定 時数	実施 時数
10 11 12	○屋台だ！わっしょい！②～小学部のみな さん！いらっしやい！～ ・楽しいゲームをもっと探そう（ラウンドワ ン校外学習含む） ・ゲームをもっと楽しもう ・友達を招いて屋台にチャレンジ ・小学部の友達を招待しよう	生活 エ遊び 2段階（ア）（イ） 生活 オ人との関わり 2段階（ア） 生活 カ役割 2段階（ア）（イ） 生活 ケきまり 3段階（ア）（イ） 生活 コ社会の仕組みと公共施設 2段階（イ） 生活 シものの仕組みや働き 2段階 国語 ウ我が国の言語文化（イ） 国語 A聞くこと・話すこと 3段階 イ ウ オ カ 算数 A数と計算 2段階 ア Dデータの活用 ウ 図画工作 A表現 2段階ア	60	
1 2	○屋台だ！わっしょい！③～冬もお祭りや ってみよう！～ （あめっこ市、きりたんぼ） ・どんなお祭りにしようか？ ・お祭りをもっと楽しもう ・きりたんぼ作り（中2の先輩と一緒に） ・お家の人を招いてお祭りにチャレンジ ・準備（買い物、調理、ゲームの道具の準備、 看板、衣装、進行の役割分担、招待状づく りなど） ・保護者を招待（PTA）	生活 エ遊び 3段階（ア）（イ） 生活 オ人との関わり 3段階（ア）（イ） 生活 カ役割 2段階（ア）（イ） 生活 キ手伝い・仕事 2段階（ア）（イ） 生活 ク金銭の取り扱い 2段階（ア）（イ） 生活 ケきまり 3段階（ア）（イ） 生活 シものの仕組みや働き 2段階 国語 ウ我が国の言語文化（イ） 国語 A聞くこと・話すこと 3段階 イ ウ オ カ 算数 A数と計算 2段階 ア Dデータの活用 ウ 図画工作 A表現 2段階ア	30	
2 3	○秋田を飛び出そう！ （R8修学旅行は宮城方面の予定） ・宮城県について知ろう	生活 オ人との関わり 3段階（ア）（イ） 生活 ク金銭の取り扱い 2段階（ア）（イ） 生活 ケきまり 3段階（ア）（イ） 生活 コ社会の仕組みと公共施設 2段階（ア）（イ） 国語 ウ我が国の言語文化（イ） 国語 A聞くこと・話すこと 3段階 イ ウ オ カ 音楽 A表現 エ身体表現の活動 体育 F表現運動 2段階 表現運動	10	
10 11 12 1 2 3	行事と季節 ○学園祭をがんばろう ○クリスマス会 ○6年生を送る会 ○かっこいい5・6年生になるぞ！	生活 エ遊び 2段階（ア）（イ） 生活 カ役割 2段階（ア）（イ） 生活 キ手伝い・仕事 2段階（ア）（イ） 国語 A聞くこと・話すこと 2段階 イ ウ 国語 C読むこと 2段階エ 3段階エ 音楽 A表現 エ身体表現の活動（ウ） 体育 A体づくり運動 2段階ウ	50	
【指導の評価】（単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等）				

中学部 第1学年 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和7年12月4日（木）
3校時（10:30～11:20）

場 所：中学部1-1、1-2教室

授業者：笹渕理恵子（T1）、磯邊 千春（T2）
高橋 朋子（T3）、信太 渉（T4）
保坂二美子（T5）

1 単元名 中1カフェⅣ ～先輩を招待しよう～

2 単元設定の理由

(1) 生徒について

本学習グループは、男子5名、女子5名、計10名からなり、うち8名が地域の小学校から入学した。コミュニケーション面では、日常会話が成立する生徒、発声で返事をする生徒、場面によって言葉が出にくくなる生徒がおり、実態は様々である。人と関わることを好む生徒が多く、友達と関わり合いながら、学習する姿も増えてきた。自分の思いを相手に伝えたり、自分から行動したりすることが苦手な生徒もいるが、小グループでの話し合い活動の中で、自分の意見を言ったり、生徒同士で話し合ったりする場面が見られるようになった。

未経験の活動に対して苦手意識が強く、不安感を感じる生徒が多いが、繰り返し取り組み見通しのもてる学習には、意欲的に取り組むことができる。制作活動全般に苦手意識をもっている生徒が多いが、自由な表出を受け入れて支援することで、自信をもって、主体的に活動できるようになってきた。「中1カフェ」の飲み物の提供では、ペットボトルの飲み物をコップに注ぐ経験から、一定の量をコップに注ぎ、蓋をしてストローをさす、お菓子を個包装のものから、袋からトングを使って皿に盛り付けるなど活動を広げてきた。生徒は客の来店を楽しみに開店準備をするなど前向きに取り組み、相手を意識してカフェの運営を考えるようになってきている。

(2) 単元について

単元「中1カフェ」では、カフェの開店に向けた活動を通して話し合いや制作、校外学習など様々な学習を設定する。人と関わることを好む実態を生かし、意欲や見通しをもって活動できると考えた。学習を展開する中で、自分の役割を果たすことの大切さに気付いたり、カフェと一緒に開店させる友達やカフェの客など自分以外の人のことを考えて活動したりする姿を目指したい。

これまで、保護者を招待したり、客の対象を限定せずに開店したりする単元を設定した。保護者を招待した際は、来店した客を喜ばせたいという気持ちが高まり、客の立場になってメニューやBGMを考えることができた。客の対象を限定しないカフェを開店した際は、予想以上の来客に戸惑いながら、役割分担の大切さを学ぶ機会となった。

本単元では、これまで学習したことを生かして、生徒から要望のあった友達（中学部2年生の先輩）を招待し、「先輩に喜ばれるカフェにしたい」という生徒の思いを形にしていくカフェづくりを展開していく。実際にカフェに行き、客としてサービスを受ける学習を設定することで、これまでの学習経験から自分たちで考えた観点や店員へのインタビューから気付いたことや知ったことなどを生かすことができる。また、生徒同士が自分の意見を出し合う中で、新たな気付きや発見とともに、自分から意欲的に行動する姿につながると考えた。実際にカフェを利用し働く人を間近に見たり、働く人を見て気付いたことを自分たちの店づくりに生かしたりする活動を通して、働く人の存在に気付き、憧れの気持ちや人の役に立ちたいという思いをもつなど、個々の実態に応じた働くことへの気付きや期待感をもつ姿につなげていきたい。

本単元は、主に以下の特別支援学校中学部学習指導要領職業・家庭科、社会科の内容を取り扱う。

<p>中学部 職業・家庭科</p> <p>内容 【職業分野】 (2)内容 A 職業生活 ア働くことの意義</p> <p>1段階 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。</p> <p>2段階 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。</p> <p>中学部 社会</p> <p>内容 ア 社会参加ときまり 1段階 (ア) ⑦ 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。</p>
--

(3) 指導に当たって (生徒の学びをつなぐ工夫)

縦のつながり	前時まで	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって自分から活動に取り組むことができるように、これまでの「中1カフェ」の学習を生かし、準備→練習→開店という流れで学習内容を設定する。 ・担当する役割で自分のなりたい姿をイメージできるように、前単元で「キッチン」と「ホール」の両方の仕事を体験したことを振り返る時間を設定する。 ・校外学習に行く際は、これまでの学習経験を基に、店づくりの参考になる観点を自分たちで設定したりまとめたりする学習を設定する。 ・生徒の特技を生かし、生徒同士の関わりや学習がより深まるようデザイングループを設定する。 ・カフェの見学や開店準備を進めることで感じたり気付いたりして生じた変容や成長により、柔軟に指導計画や支援、手立て等を変更する。
横のつながり	各教科日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識したり、感謝されたりする経験を積むことができるよう、総合的な学習の時間「きれいにしよう」で地域のごみ拾いの活動を継続して設定する。 ・衛生的な環境を保つことや身だしなみを整えることの大切さに気付けるように、単元を通してエプロンや三角巾の付け方を練習したり、手洗いなど身支度を整えたりする時間を設ける。
	地域、家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くこと」への気付きや期待感を得られるよう、地域にある実際の店に行ってサービスを受け、店員へインタビューをして話を聞く場面を設定する。

3 単元の目標

- (1) 先輩に喜んでもらうために必要なことや役割の進め方について知る。 【知・技】
- (2) 先輩に喜んでもらうための「いいね！ポイント」に基づいて、友達と協力してカフェを運営しようとする。 【思・判・表】
- (3) 中1カフェの運営を通して、人に喜ばれることや友達と協力して得られる成就感や達成感を味わい、人の役に立とうとする気持ちをもつ。 【学】

4 単元の指導計画（本単元の総時数 30時間 本時19/30）

小単元名 ・主な学習活動	時数	目標	主に指導する教科
(1) カフェへ行こう ・カフェを開店することを 知る ・招待する相手が喜ぶカフェ にするための「いいね！ポ イント」を考える。 ・実際にカフェを利用し、気 付いたことをメモする。 ・店員にインタビューする。 ・分かったことをまとめる。	6	・「いいね！ポイント」を見付けたり考えたりす る。 【知・技】 ・実際の店舗を利用し、「いいね！ポイント」を 観点として見学する。 【思・判・表】 ・店舗を利用し、見学で得たことを生かして、 自分たちのカフェをつくらうとする。 【学】	国語 社会（産業と生活） 職業・家庭
(2) カフェの開店準備をしよう ・カフェの名前を決める。 ・「自分で頑張ること」を決 める。 ・グループごとに開店準備 をする。 ＜キッチンG＞ ・メニューを決める。 ・飲み物を提供するための 準備をする。 ・お菓子の盛り付けを決め る。 ＜ホールG＞ ・役割の確認をする。 ・机の配置を決める。 ・接客の練習をする。 ＜デザインG＞ ・ロゴのデザインを決める。 ・招待状を作る。 ・ノベルティグッズを作る。 ・看板やコースターなどカ フェに必要な物を作る。 ・お互いのグループの成果 を見合う。(小単元の3回実施)	本時 13 / 14	・カフェの中の自分の役割について知ったり気 付いたりする。 【知・技】 ・先輩から喜ばれカフェにするために気付いた ことを友達に伝えたり、友達と協力して準備 したりする。 【思・判・表】 ・開店への見通しをもち、自分の役割を果たす ことで意欲を高める。 【学】	職業・家庭 社会（社会参加と きまり） 国語 数学
(3) カフェを開店しよう ・開店の練習をする。 ・先輩（中2）を招待する。	6	・先輩に喜んでもらえるよう、自分の役割を果 たす。 【知・技】 ・先輩に喜んでもらえる店になるよう、友達と 協力してカフェを運営する。 【思・判・表】 ・自分たちの考えたカフェが実現するよう、役 割や連携を確認したり、実践したりする。 【学】	職業・家庭 社会（社会参加と きまり） 国語 数学
(4) カフェのまとめをしよう ・カフェを振り返る。 ・表にまとめる。	4	・カフェの準備や開店を振り返り、自分や友達 の頑張りを見付ける。 【知・技】 ・自分や友達の頑張りを、まとめたり、伝えた りする。 【思・判・表】 ・分かったことや感じたことを次の学習へ生か そうとする。 【学】	国語 職業・家庭 社会（社会参加と きまり）

5 本時の計画

(1) 全体の目標

- ・気付いたことを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりして、先輩に喜んでもらえるカフェに必要な準備をする。

【思・判・表】

(2) 個別の実態と目標及び手立て

生徒名	実態	目標	手立て
A (キッチン)	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンの係で、注文された飲料を一定量注ぎ、ホール係の友達に渡した。 ・リーダーとして張り切るあまり、友達への指示が多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの誰でも同じ味の飲み物を提供するための工夫を考えて伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ味になるよう、計量の注意点を確認する。 ・友達と一緒に見て作ることができるように、ワークシート型のレシピを用意する。
B (キッチン)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの飲み物を決められた量コップに注ぐことができる。 ・質問にオウム返しで答えることが多いが、自分の好きなものや体験したことには答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に飲み物の作り方を確認し、友達から提案された選択肢から選んで伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に取り組めるよう、イラスト等で視覚的に配慮されたワークシート型のレシピを用意する。
C (キッチン)	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアが豊富で、話し合いでは積極的に意見を述べる。意見が採用されないときに不安定になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表示されているレシピをヒントに、友達と道具などを相談して、飲み物を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レシピどおり作れるように、計量の注意点を確認する。 ・これまでの飲み物の作り方を思い出せるように、レシピを掲示する。
D (ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を気遣うことができるので自然と頼られることが多いが、遠慮して自分の意見を伝えないことがある。 ・時々、場にふさわしくない言葉遣いで話すことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の接客や友達の接客を見て、気付いたことや考えたことを友達や教師に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のカフェの店員が大事にしていることを意識できるように、ポイントを黒板に示す。
E (ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ・場にそぐわない話題を持ち出して周囲を困惑させることがある。 ・同学年の女子生徒やその集団に、自分から関わるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接客について気付いたことや考えたことを友達に伝えたり、友達の意見を受け入れたりして、よい方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気づきを友達と伝えあったり、自分から協力できたりした際には、具体的に理由を伝えて称賛する。
F (ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ・招待する家族の好きな飲み物を挙げて、メニューを提案した。 ・やり直しを求められると気持ちを整理するために泣くことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注文の取り方や配り方を、友達の様子をまねしたり、アドバイスを聞いたりして覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接客の話し方や動きを覚えられるように、基本の動きを最初に確認する。 ・困ったときに相談する友達を決めておく。
G (ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きな発言が多く、状況をよい方向に捉えて伝える。 ・集中して話を聞くことが苦手で、理解している内容が断片的になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の接客について、友達から意見を聞いたり、映像を見て気付いたことを話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの内容を忘れないように、視覚的に提示したり、何度も確認したりする。

H (デザイン)	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描いたり物を作ったりすることを好む。 相手の意思を確認せずに物事を進めることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 色や形などを友達に聞きながら活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に聞きながら活動できるよう、聞き方や相手の答え方の解釈を一緒に確認する。
I (デザイン)	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描くことが好きで、丁寧に仕上げる。 聞かれたことに対してうなずいて気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の提案に自分の思いを伝えながら活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを友達に伝えやすいように、数種類の色や形を用意する。 困っている様子が見られた場合は会話を仲立ちする。
J (デザイン)	<ul style="list-style-type: none"> 「いいですか」などの質問に対して発声で応じる。 選択の場面で、提示された両方の物に触れることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達からの提案に自分の思いや希望を発声や選択肢に直接触れて伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の気持ちが分かりやすく示されるよう、選択の際に具体物やカードを用意する。

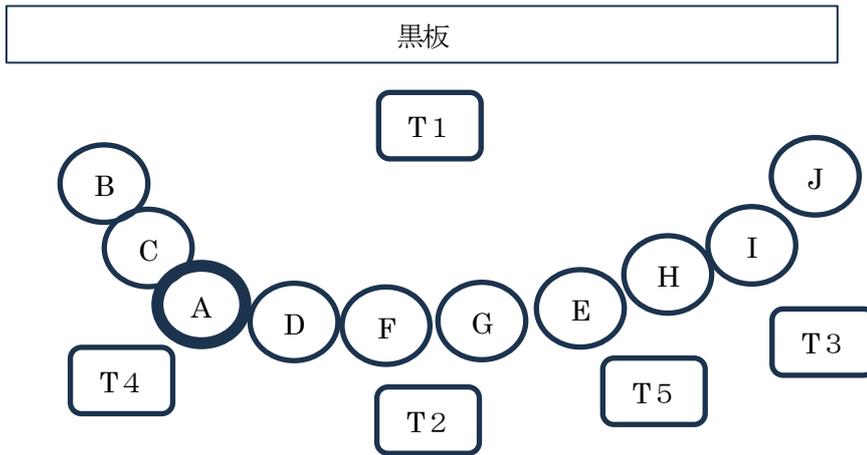
(3) 学習過程

時間	学習活動	手立て・指導上の留意点
1	1 合言葉を言う。 掛け声：店長	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェの開店への意欲が高まるよう、「愛情カフェ」の合言葉を、ポーズを付けて全員で言う機会を設定する。
5	2 学習の内容を知る めあて 開店へ向け、開店準備の仕上げをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動内容に見通しがもてるよう、説明に加え、文章やイラストで視覚的な情報を提示する。 ・今日が開店前の最後の準備の機会であることが分かるよう、開店までのカレンダーを用意し、カフェの開店日を示す。 ・全員で協力して取り組んでいる一体感を感じられるよう、各グループの活動内容を紹介する場を設ける。 ・「いいね！ポイント」を意識して活動するように、「いいね！ポイント」を掲示し、各グループが本時で取り組むポイントを確認する
3 4	3 グループごとにカフェ開店に向けて準備をする。 【キッチングループ】(1-2 教室) A、B、C (T 2、T 4) ・カフェで出す飲み物を既成のレシピどおりに作る。 【ホールグループ】(1-1 教室) D、E、F、G (T 3、T 5) ・接客練習をする。 【デザイングループ】(1-1 教室) H、I、J (T 1) ・ノベルティグッズを作る。 ・コースターを作る。J	<p>【キッチングループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで作った飲み物のレシピが視覚的に分かるように、作り方の順番を文章やイラストを使って掲示する。 ・一定の味の飲み物が作れるように、計量カップや計量スプーンを準備し、分量を考えられるようにする。 ・<u>グループで相談しながら進められるように、ワークシート型のレシピをグループに1つ用意して掲示する。</u> <p>【ホールグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで準備が進められるように、机を置く位置に印を付いたり、必要な物の置き場を決めたりする。 ・接客で気を付けるポイントが分かるように、「いいね！ポイント」を黒板に示し、できたところに花丸を付ける。 ・(G) が活動に集中できるよう、課題を平易な言葉で説明したり、視覚的な手掛かりを用意したりする。 <p>【デザイングループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して制作できるように、ノベルティグッズを作る工程を分担する。 ・好きな色や形を選んで作ることができるよう、材料を数種類用意する。 ・誰のために作っているのか分かるように、中2の生徒の顔写真を提示する。 ・(J) が意欲を持続して活動できるよう、数種類の活動を用意する。
1 0	4 本時の学習を振り返る。 ・グループごとに報告をする。 ・次時の活動を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の成果と次時の活動が分かるよう、各グループからの報告で、本時の「いいね！ポイント」への取組と次時の発表で見てほしいことを報告するよう伝える。

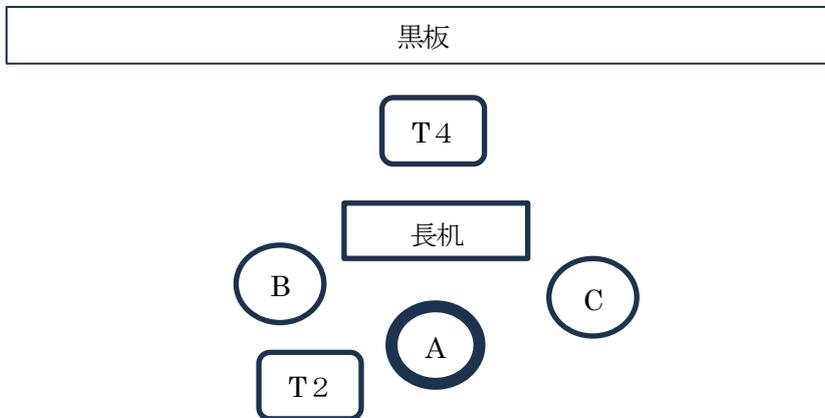
※波下線は抽出生徒に対する手立て

(4) 配置図、座席表

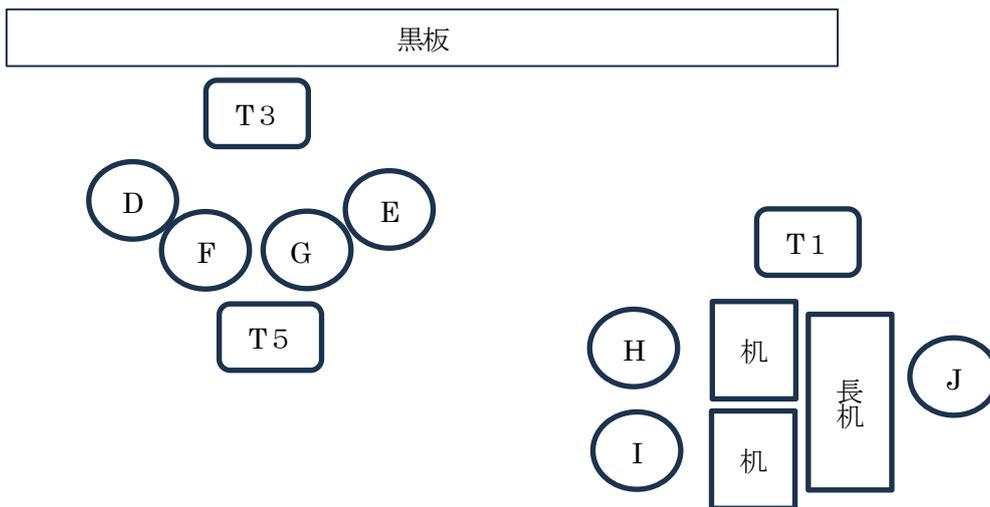
【学習活動1・2・4：中学部1年2組教室】



【学習活動3、キッチングループ：中学部1年2組教室】



【学習活動3、ホールグループとデザイングループ：中学部1年1組教室】



(5) 評価

生徒：カフェ開店に向けて、先輩に喜んでもらうために、気付いたことを、友達に伝えたり、友達の意見を受け入れたりすることができていたか。

教師：先輩に喜んでもらうことを意識しながら、自分の意見を伝えたり、友達の意見を受け入れたりしながら活動するための教材・教具の工夫や言葉掛けは適切であったか。

令和7年度 中学部1年 生活単元学習 年間指導計画

【生徒】10名

【指導者】笹渕理恵子、信太渉、伊岡森真由、高橋朋子、齋藤行正、磯邊千春

【年間目標】

- (1) 生活の身近な事柄に関心をもち、買い物や調理などの基礎的な知識や技能を知り、身に付ける。
(知・技)
- (2) 生活に身近な事柄に課題を見付け、知っていることやできることを活用した考えを友達や身近な教師に伝え、解決しようとする。(思・判・表)
- (3) 生活に身近な事柄から見付けた課題を友達と協力して解決する喜びを感じる。(学)
- (週時数8時間)

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主に指導する教科と (内容)	予定 時数	実施 時数
4	○中1スタート ・自己紹介 ・プロフィール表づくり ・学校探検 ・1年生を迎える会 ・係活動 ・交通安全教室 ・レクリエーション	国語(聞くこと・話すこと)1段階エ、オ 社会(社会参加ときまり)1段階(イ)㊦	14	20
4 ・ 5	○がんばろう！運動会 ・ポスター制作 ・目標設定と振り返り ・家族への招待状 ・鉢巻きの洗濯 ・ごくろうさん会(カフェ)の計画と実施 (中1カフェI)	美術(表現)1段階ア(ア) 国語(書くこと)1段階ア、イ 職業・家庭(衣食住の生活)1段階ウ(ア)	8	18
5	○私たちの学年目標 ・学年目標の設定(話し合い活動) ・学年目標の掲示(制作)	社会(社会参加ときまり)1段階(ア)㊦ 美術(表現)1段階ア(ア)	16	12
5	○自分を見付けよう① ・1学期の目標を立てよう	道徳(向上心、個性の伸長) 国語(書くこと)1段階①イ、エ	4	4
6	○宿泊学習 ・事前学習 ・事後学習	社会(社会参加ときまり)1段階(ア)㊦、㊧ (公共施設と制度)1段階(イ)㊦	20	21
6 ・ 7	○中1カフェII ～家族を招待しよう～ ・カフェに行ってみよう(校外学習) ・カフェを開こう①(校外学習)	社会(産業と生活)1段階(イ)㊧ 職業・家庭(職業生活)1段階ア(イ)	34	28
7 ・ 8	○夏休みの生活 ・食生活 ・歯磨き ・ゲームの利用の遊び方 ・夏休みの生活と目標、振り返り	社会(社会参加ときまり)1段階(イ)㊦ 職業・家庭(家族・家庭生活)1段階イ(イ)	6	16
9	○中1カフェIII ～パワーアップしよう～ ・カフェを開こう②	社会(社会参加ときまり)1段階(ア)㊦ 職業・家庭(職業生活)1段階ア(イ) (家族・家庭生活)1段階ウ(ア)	8	8
9	○がんばろう！学園祭 ・目標設定 ・場面練習 ・全体練習 ・前夜祭に出場しよう	国語(書くこと)1段階イ、ウ 社会(社会参加ときまり)1段階(ア)㊧ 音楽(表現)1段階(ウ)㊧、㊨	34	36
【指導の評価】(単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等)			144	163

月	○題材単元名 ・主な指導内容	主に指導する教科と（内容）	予定 時数	実施 時数
10	○がんばろう！学園祭 ・場面練習 ・全体練習 ・前夜祭に出場しよう ・家族を招待しよう ・振り返り	国語(書くこと)1段階イ、ウ 社会(社会参加ときまり)1段階(ア)㊦ 音楽(表現)1段階(ウ)㊦、㊧	16	
10	○自分を見付けよう② ・1学期の目標を振り返ろう ・2学期の目標を立てよう	道徳(向上心、個性の伸長) 国語(書くこと)1段階イ、エ	8	
10	○チャレンジ中1 ・職場見学(校外学習)	社会(公共施設と制度)1段階(ア)㊦ 職業・家庭(職業生活)1段階ア(ア)	16	
11	○中1カフェⅣ ・カフェを開こう③ ・校外学習(買い物)	数学(数と計算)1段階(イ)㊦ 社会(社会参加ときまり)1段階(ア)㊦、㊧ 職業・家庭(職業生活)1段階ア(ウ)、 イ(ア)㊦	30	
12	○自分を見付けよう③ ・自分のことを調べよう ・自分のことを伝えよう	数学(測定)1段階イ 職業・家庭(衣食住の生活)1段階ウ(ア) 国語(話すこと)1段階イ	8	
12 1	○冬休みの生活 ・冬休みの生活と目標 ・冬休みの生活の振り返り ・冬休みの昼食を作ってみよう 校外学習(買い物)調理実習	国語(書くこと)1段階ウ、エ 職業・家庭(家族・家庭生活)1段階イ(イ) 職業・家庭(衣食住の生活)1段階ア、イ	6	
1	○3年生を送る会 ・3年生を送る会で発表しよう	国語(聞くこと・話すこと)1段階ア、イ 数学(数と計算)1段階ア(ア)㊦、ア(イ)㊦	6	
2	○自分を見付けよう④ ・自分の好きなこと、嫌いなこと ・自分の得意なこと、苦手なこと	道徳(個性の伸長) 国語(書くこと)1段階イ、エ、オ	8	
2	○中1カフェⅤ ・カフェを開こう④	職業・家庭(衣食住の生活)1段階ア、イ 職業・家庭(消費生活・環境)1段階ア	32	
3	○自分を見付けよう⑤ ・2学期の目標の振り返り ・「なりたい自分」はどんな自分？ ・「なりたい自分」を伝えよう	道徳(向上心、個性の伸長) (よりよく生きる喜び) 国語(聞くこと・話すこと) 1段階イ、ウ、エ、オ	6	
【指導の評価】(単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等)			136	

高等部3年Bグループ 職業科 学習指導案

日 時：令和7年12月10日（水）
3校時（10:30～11:20）
場 所：高等部3年1組教室
授業者：畑山 拓

1 題材名 「夢の実現に向けて」

2 題材設定の理由

(1) 生徒について

本学習グループは、高等部3年生男子3名で構成されている。卒業後の進路決定に向けて、これまでの学校生活や現場実習を通して得た経験を振り返り、自分の強みや得意なことを客観的に捉えられるようになってきた。自分の課題についても理解しているが、どのようにして解決すればよいか分からないのが現状である。

高等部卒業後は就労継続支援A型、B型事業所の利用を希望している。現場実習を通して卒業後の生活に見通しをもち、働くことへの意欲はあるが、やることが分かっても指示があるまで動き出さないなど仕事に対して受動的な一面もある。

3名とも家族と同居しており、家では自分の役割として掃除や調理に取り組む生徒、家族と一緒に家事をする生徒、家族に任せきりでほとんど家事をしない生徒と家事への取り組み方は様々である。

休日は自宅で過ごす生徒、放課後等デイサービスを利用する生徒、家族に連れられて外出する生徒など、余暇時間の過ごし方は多様である。余暇の過ごし方については、自分のできることであっても保護者の協力が前提であり、自立しているとは言えない状態である。

(2) 題材について

高等部では、生徒の肯定的な自己理解を深め、「どうすればいいのか」「何をすべきなのか」という意思形成を支え、進路選択・進路決定への本人参画を促すことや本人の願いや目標を明確にし、評価を積み重ねていくことをねらいにキャリアノートを活用してきた。

本題材では、マンダラチャートを作成する。マンダラチャートの作成に先駆け、キャリアノートや実習日誌を活用し、家庭、学校、地域などでの様々な経験を振り返り、今できていることや得意なことなどの視点で整理することで、今の自分の姿を再確認する。その上でマンダラチャートの作成を通して、本人の夢や願いの実現に向けてやるべきことを「見える化」することで、自らの将来への納得感と見通しをもって意欲的に歩み続ける姿を引き出すことができると考える。

さらに、作成したマンダラチャートを基に友達や教師と互いの将来の夢や願いの実現のために必要な行動について意見交換をすることで、自己理解を深めるとともに、友達の考えのよさに気づき、自分の考えを広げ、「自分はこれをやる」という強い意思形成を図ることができるのではないかと考える。

以上のことから、マンダラチャートを活用して生徒一人一人の夢や夢の実現のために「何をすべきなのか」を多様な視点から考え、自分のやることを考えて行動し、自己評価を重ね、歩み続ける姿へとつなげていきたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導に当たって（児童生徒の学びをつなぐ工夫）

縦のつながり	前時まで	<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習の評価表や実習日誌、キャリアノートを振り返ることで、自分の強みや弱み、これまでの自分自身の成長を再認識し、卒業後の目標設定へつなげられるようにする。 ・作成したマンダラチャートを掲示することで現状を把握できるようにし、学び続ける動機付けにする。
	今後	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や目標設定の参考にできるように、就職している卒業生から仕事の悩みや余暇の過ごし方について話を聞く活動を設定する。
横のつながり	各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に必要な力が他教科で身に付けた力と共通していることをマンダラチャートで示す。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が作成した行動計画や目標を家庭に持ち帰り、家庭内での役割や余暇活動に活かしてもらうようにする。

本題材の指導に当たっては以下の内容に留意する。

- ・夢の実現に向けて多様な視点から課題を分析したり、視覚的に理解し、見通しをもって取り組んだりできるように、マンダラチャートを活用する。
- ・課題解決の意欲を高めるために目標や行動を細分化することで、自分にもできるという自信に繋げる。
- ・自信をもって課題に取り組むことができるように、肯定的な評価をする。修正が必要な場合には、よりよくするための発展的な言葉掛けを行う。
- ・夢の実現に向けた取り組みについて、自分では気付けなかった視点から物事を考えたり、自分の考えを深めたりできるように、友達と個々の夢や課題について話し合う場面を設ける。

3 題材の目標

- (1) 自分の「夢」を実現するために必要なことや自分の成長と課題について理解する。【知・技】
- (2) 自分の「夢」を実現するために必要な課題解決の方法を考え、具体的な行動計画に表す。【思・判・表】
- (3) 夢の実現に向けて、目標や計画性をもって主体的に課題解決に取り組む。【学】

4 題材の評価規準

【知・技】	【思・判・表】	【主体的に学習に取り組む態度】
卒業後の進路（就職先、生活など）に関する基本的な情報が分かり、夢の実現のために必要な要素を挙げている。	自分の「強み」と「課題」を客観的に捉え、夢の実現に向けた具体的に現実的な行動計画を立てている。	卒業後の進路や夢の実現に向けて、意欲的に情報収集や計画立案に取り組んでいる。

5 題材の指導計画（本単元の総時数 15時間 本時 6 / 15）

小題材名 ・主な学習活動	時数	目標	評価規準
(1) 夢について考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢を考える ・現場実習を振り返る 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢」の意味を理解する。 ・卒業後の自分の姿をイメージする。 ・実習を振り返り、自分の強みや課題を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢」の意味や必要性について、理解している。 ・自分の強みや課題を理解している。

<p>(2) 夢の実現のためにマンダラチャートを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> マンダラチャートについて知る。 自己理解(得意なこと、課題)を深める。 マンダラチャートに書き込む内容をメモに書き出す。 メモを基にマンダラチャートを作る。 お互いのマンダラチャートを見合い課題解決に向けてアイデアを出し合う。 	9 3/9 本時	<ul style="list-style-type: none"> 夢の実現に向けて自分の強みと課題を確認し、視覚的に表現する。 見つけた課題の解決方法を考えたり調べたりする。 1人のマンダラチャートを使って課題解決の方法を一緒に考える。(3回繰り返す。) 	<ul style="list-style-type: none"> 現場実習やキャリアノートを振り返り、自己理解を深めている マンダラチャートに具体的な課題解決の方法を記入している。
<p>(3) 夢の実現のために行動計画書を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 行動計画作り 意見交換 	2	<ul style="list-style-type: none"> 夢の実現までの行動計画を作成する。 友達の計画書を見たり、友達の意見を聞いたりして計画書を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事と生活のバランスを考慮した計画を作成できている。 自分の計画を分かりやすく説明し、他者の意見を受け入れている。
<p>(4) まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 決意表明 行動計画の活用について 	1	<ul style="list-style-type: none"> 題材を通して作成した「行動計画」を活用する意欲を高める。 自分の成長や、計画を作成した努力を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をもって決意を表明し、学習の振り返りを具体的にしている。

6 本時の計画

(1) 全体の目標

- 具体的な場面を想定して課題解決の方法やアイデアを出し合い、自分が取り組みそうなものを選んでマンダラチャートに記入する。【知・技】【思・判・表】

(2) 個別の実態と目標及び手立て

生徒名	実態	目標	手立て
A	<p>自分の課題を見付けることは苦手であるが、自分にできることは理解している。</p> <p>報告や指示理解などは不十分な場合もあるが、実習や作業学習で繰り返し取り組んだ特定の作業は習熟している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達が課題を解決するために必要な具体的なアイデアを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の原因を掘り下げ、解決のポイントを見つけられるように「なぜ？」と理由を問い掛ける。
B	<p>新しいことに挑戦することを苦手としているが、経験したことに関しては抵抗感なく繰り返し取り組むことができる。</p> <p>不安や困りごとを他者に伝えることは苦手であるが、自分でやってみようとする場合もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達が課題を解決するために必要なことの具体的なアイデアを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な行動の参考となるように、課題を細分化して整理できるようにワークシートを用意する。

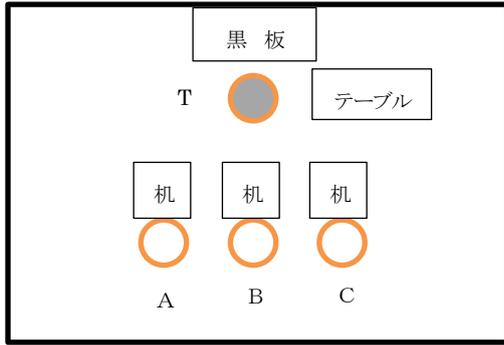
C	自分の「強み」や「課題」を理解している。支援が必要な場合に、適切な言葉で整理して他者に伝えることは苦手だが、自分なりに解決法を考えて対応しようとする。	・友達の意見を参考にしながら、自分の課題の解決方法を具体的な行動をマンダラチャートに書く。	・具体的な課題解決の方法を決められるように、似ているアイデアを分類したり、原因を掘り下げるために問いかけたりする。
---	---	---	---

(3) 学習過程

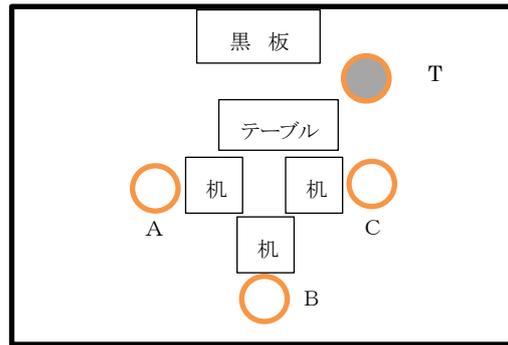
時間	学習活動	手立て・指導上の留意点
3	1 本時の学習内容とめあてを知る。	・活動に見通しがもてるように本時の学習名を黒板に掲示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> めあて Cさんのマンダラチャートを見合い、課題解決のアイデアを出し合う。 </div>		
40	2 Cのマンダラチャートを作成する。 (1) (C) マンダラチャートに記入した内容や課題を紹介する。 (A)、(B) Cの紹介を聞き、質問や確認をする。 (2) Cさんのマンダラチャートの内容や紹介を基に、課題解決の方法についてアイデアを出し合う。 (3) (C) 話合いの中で出された意見から自分のマンダラチャートに書き加えるものを選んで記入する。 (A)、(B) 話合いの中で出された意見から自分のマンダラチャートにも必要なものを選んで記入する。	・本時の活動に見通しをもてるように、本時ではCのマンダラチャートを作成することを伝え、事前に決めた課題を確認する。 ・(C) マンダラチャートに記入していることをスムーズに話せるように、発表の形式を決めておく。 ・(A)、(B) Cの発表を聞いて、質問や聞きたいことが出てこない時は、教師が初めに質問をしたり、紹介した内容を繰り返して伝えたりする。 ・複数の視点を取り入れ、必要な要素を記入できるように、友達の意見を聞いたり、教師とやり取りをしたりする場面を設定する。 ・具体的な場面をイメージできるように、イラストを提示しながら説明したり、ロールプレイを行ったりする。 ・自分の考えに近いアイデアから選べるように、出された意見を付箋紙に書いてホワイトボードに貼り、選択できるようにする。 ・友達の意見を課題解決に生かせるように、付箋紙を貼り付けられるワークシートを用意する。 ・マンダラチャートに書き込む内容を選べない時には、「それをやることで課題は解決できそうか」、「自分にとって必要な事か」などの視点の例を問い掛ける。
7	3 本時の学習を振り返る。	・自分の選んだ課題解決の方法を意識できるように、発表する機会を設ける。 ・次時への見通しをもてるように、活動内容を伝える。

(4) 配置図、座席表

<授業開始、振り返り>



<話し合い>



(5) 評価

生徒：夢を実現するための課題解決方法をマンダラチャートに記入することができたか。

教師：夢を実現するための課題解決方法を考えたり、アイデアを出し合ったりするための手立ては適切であったか。

令和7年度 高等部3年Bグループ 職業科 年間指導計画

【生徒】3名

【指導者】畑山拓

【年間目標】

- (1) 職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付ける。(知・技)
 (2) 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。(思・判・表)
 (3) よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。(学)
- (週時数 3時間)

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主な目標	予定 時数	実施 時数
4	○オリエンテーション ・年間の学習計画 ・働くことについて	・1年間の学習内容について知る。 ・「働く」ことについての理解を深める。	5	5
5	○健康管理と余暇① ・有意義な休日の過ごし方 ・アイロンの使い方 ・洗濯	・大型連休の目標を立てる。 ・洗濯機の使い方や干し方、畳み方を覚える。	5	5
5 6	○校内・現場実習事前事後学習 ・オリエンテーション ・マナーとルール ・実習先調べ ・決意式、報告会	・現場実習先の所在地や仕事の内容を調べて、実習の目標を決める。 ・担当した作業工程や実習の感想をまとめ、発表する。 ・働くために必要なマナーやルールを身に付ける。	25	25
7 8	○健康管理と余暇② ・健康的な食生活 ・簡単調理 ・余暇の過ごし方 ・自立に向けて	・ 普段の食事に含まれる栄養素を調べ、バランスのよい食事のために改善方法を考える。 ・ 一人でレトルト食品を調理し、食事を用意する。 ・充実した余暇を過ごすために、やりたいことを考え、自分自身で行うために必要なことを調べる。	10	10
9	○情報モラル ・個人情報の取り扱い ・相手とのやり取り(SNSなど) ・インターネットの有効活用	・インターネットの使用に関するルールやマナーを確認し、トラブルを回避したり、対処したりする方法を身に付ける。 ・個人情報の大切さ、取扱い方を知る。 ・相手の気持ちを考えたSNSの使用法を知る。	5	5
通 年	○私のトリセツ ・自己理解 ・アンガーマネジメント ・得意・不得意 ・苦手を克服する手段	・自分の長所や課題について確認する。 ・自分の課題を克服するための手立てを見つける。 ・感情のコントロールの方法を知る。		
【指導の評価】(単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等)				

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主な目標	予定 時数	実施 時数
10 11 12	○夢の実現に向けて ・社会人としての生活 ・夢との向き合い方	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現のために自分の強みや課題を可視化し、自己理解を深める。 ・夢を実現するために身に付けるべき力や必要な方法を調べる。 ・社会生活での一日の流れや、有意義で健康的な余暇の過ごし方について知る。 	15	
1 2 3	○卒業後の生活に向けて ・場に応じた服装、言動、マナー ・お金の管理 ・簡単調理 ・同窓会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じた服装、言動、マナーについて知り、実践する。 ・計画的なお金の使い方や、管理の仕方について知る。 ・体調を考えた献立を考える。 ・「同窓会」について知る。 	20	
時期 に 応 じ て	○実習の評価と振り返り ○外部講師によるビューティーセミナー ・身だしなみ（洗顔、整髪、髭剃り） ○消費者生活出前講座 ・特殊詐欺、悪質商法、ネットトラブル、「契約」の基礎知識など ○防犯力チェック ・詐欺の特徴 ・詐欺被害を防ぐ方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に向き合い、日常生活や学習活動でできることを考え、実践する。 ・社会人としての身だしなみについて知り、日常的に実践する。（メイクを除く） ・TPOに合わせた服装を知る。 ・自分で安全で合理的な意思決定をしたり、考えられる被害について知り、回避したり被害に合った場合に適切に対処する方法を知ったりする。 ・詐欺の特徴について知り、防犯意識を高める。 ・詐欺被害に遭わないための対処法を身に付ける。 	15	
【指導の評価】（単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等）				

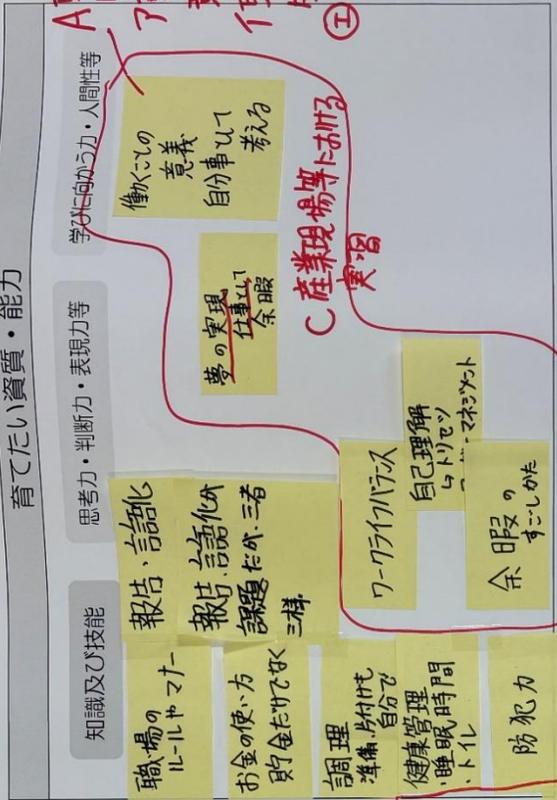
単元構想シート

学部	指導の形態	学習グループ
高等部	職業	高3 Bグループ
	興味・関心	好きなこと・得意なこと
買っもの行く本.CD	水族館 動物園	電車 大和
健康 管理 ・睡眠時間 ・トイレ	身に付けさせたい力 職場の ルールや マナー	ワーク バランス 夢の 実現
報告 言語化 防犯力	準備片付け 自分で	ワーク バランス 自己理解 ・レポート ・プレゼン ・ネット 余暇の 過ごし方
	自己理解 ・レポート ・プレゼン ・ネット	ワーク バランス 自己理解 ・レポート ・プレゼン ・ネット 余暇の 過ごし方
	余暇の 過ごし方	ワーク バランス 自己理解 ・レポート ・プレゼン ・ネット 余暇の 過ごし方

取り扱う内容

夢と現実
なぜ?を
問う
そのために
何が必要
かを考える
自分で
伝える

夢の実現に向けて



職業生活の意義
職業生活の意義

学習指導案づくりの視点【各教科等を合わせた指導】

学習指導案の項目	視点	視点の内容
1 単元（題材）名	視点①	・活動がイメージしやすく、児童生徒の意欲が高まるような単元（題材）名であるか。
2 単元（題材）設定の理由 （1）児童（生徒）について	視点②	・単元（題材）に関する児童生徒の実態や課題、育ちつつある部分やこれまでの学習状況などを記述しているか。
（2）単元（題材）について	視点③	・単元（題材）に対する考え方や扱う意義、児童生徒に期待される効果、育てたい力などについて触れて記述しているか。
	視点④	・学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を確実に押さえているか。 ※主に指導する2教科程度を記述
（3）指導に当たって（児童生徒の学びをつなぐ工夫）	視点⑤	・目標達成のための指導の工夫（手立て、教材・教具、教師の指導体制〈TT〉、学習環境や内容など）を具体的に記述しているか。
	視点⑥	・児童生徒の学びをつなぐための学びをつなぐ工夫が具体的に記述しているか。
3 単元（題材）の目標	視点⑦	・「～する」「～しようとする」といった表現で記述しているか。
4 単元の指導計画	視点⑧	・単元（題材）の目標を達成するための指導計画を明確かつ段階的・系統的に位置付けているか。
5 本時の計画 （1）全体の目標	視点⑨	・単元（題材）の目標よりも具体的で、本時で達成できる目標を設定しているか。 ※三観点すべての目標を設定しなくてもよい
（2）個別の実態と目標及び手立て	視点⑩	・本単元（題材）における児童生徒の実態や、これまでの学習の様子を記述しているか。
	視点⑪	・「全体の目標」を踏まえ、個別の実態に応じ本時で達成を目指す具体的な目標を設定しているか。
	視点⑫	・目標達成のための具体的な手立てを設定しているか。
（3）学習過程 ・学習活動	視点⑬	・授業全体の流れが把握できるように、具体的な学習内容や教師の支援を記述しているか。
	視点⑭	・児童生徒の活動を具体的に（「～する」など動詞で表記）記述しているか。
	視点⑮	・児童生徒に提示するめあて＝目指す「活動のゴール」を具体的に設定しているか。
・手立て・指導上の留意点	視点⑯	・目標達成に向け、「学習活動」に対応する具体的な手立てを記述しているか。
（4）配置図、座席表	視点⑰	・図などを用いて、学習環境をイメージしやすく示しているか。

参考：宮城県総合教育センター「特別支援学校、特別支援学級知的障害教育のためのみやぎ授業づくりガイド」

学習指導案づくりの視点【教科別の指導】

学習指導案の項目	視点	視点の内容
1 単元（題材）名	視点①	・活動がイメージしやすく、児童生徒の意欲が高まるような単元（題材）名であるか。
2 単元（題材）設定の理由 （1）児童（生徒）について	視点②	・単元（題材）に関する児童生徒の実態や課題、育ちつつある部分やこれまでの学習状況などを記述しているか。
（2）単元（題材）について	視点③	・単元（題材）に対する考え方や扱う意義、児童生徒に期待される効果、育てたい力などについて触れて記述しているか。
（3）指導に当たって（児童生徒の学びをつなぐ工夫）	視点④	・目標達成のための指導の工夫（手立て、教材・教具、教師の指導体制〈TT〉、学習環境や内容など）を具体的に記述しているか。
	視点⑤	・ 児童生徒の学びをつなぐための学びをつなぐ工夫が具体的に記述しているか。
3 単元（題材）の目標	視点⑥	・「～する」「～しようとする」といった表現で記述しているか。
4 単元（題材）の評価規準	視点⑦	・ 3 単元（題材）の目標 に対して児童生徒のどのような姿が見られれば「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記述。
5 単元の指導計画	視点⑧	・単元（題材）の目標を達成するための指導計画を明確かつ段階的・系統的に位置付けているか。
	視点⑨	・ （評価規準は）その小単元（題材）で児童生徒のどのような姿が見られれば「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記述しているか。
6 本時の計画 （1）全体の目標	視点⑩	・単元（題材）の目標よりも具体的で、本時で達成できる目標を設定しているか。 ※三観点すべての目標を設定しなくてもよい
（2）個別の実態と目標及び手立て	視点⑪	・本単元（題材）における児童生徒の実態や、これまでの学習の様子を記述しているか。
	視点⑫	・「全体の目標」を踏まえ、個別の実態に応じ本時で達成を目指す具体的な目標を設定しているか。
	視点⑬	・目標達成のための具体的な手立てを設定しているか。
（3）学習過程 ・学習活動	視点⑭	・授業全体の流れが把握できるように、具体的な学習内容や教師の支援を記述しているか。
	視点⑮	・児童生徒の活動を具体的に（「～する」など動詞で表記）記述しているか。
	視点⑯	・児童生徒に提示するめあて＝目指す「活動のゴール」を具体的に設定しているか。
・手立て・指導上の留意点	視点⑰	・目標達成に向け、「学習活動」に対応する具体的な手立てを記述しているか。
（4）配置図、座席表	視点⑱	・図などを用いて、学習環境をイメージしやすく示しているか。

参考：宮城県総合教育センター「特別支援学校、特別支援学級知的障害教育のためのみやぎ授業づくりガイド」

あとがき

本校では昨年度まで、教師による「見取り」に焦点を当て、主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりに取り組んできました。

今年度からは、昨年度までの成果と課題を基に「児童生徒の学びをつなぐ授業づくり～児童生徒の『思い』や『願い』を踏まえて～」というテーマの下、2年間の研究に取り組んでいます。

「学びをつなぐ」という言葉は抽象的で、捉え方も様々であると思います。本校では各教科等の中でのつながりを「学びの積み重ね（縦のつながり）」、それぞれの各教科等間のつながりを「学びの広がり・活用（横のつながり）」と捉え、児童生徒が「学びをつないでいる」姿がどのような場面で見られるのかということについて、共通理解を図ってきました。今後も「学びをつなぐ」の捉えについては、学校全体で理解を深めていきたいと考えています。

職員からは、授業づくり・授業改善についてのニーズが高まってきています。「授業づくりの仕組みや単元構想について、じっくりとチームで相談、検討したい」「授業研究会で授業全体に対しての改善案を協議したい」「授業者として授業改善の意見がほしい。授業者が成果や達成感を得られる研究になれば」などの意見が聞かれます。

児童生徒が学んだことを生活の中で具体的に活用している姿が見られ、我々教職員の授業力が高まる研究となるよう、これからの研究に取り組んで参りたいと思います。

最後に、本研究に対しまして、たくさんの御指導、御助言をいただきました秋田県総合教育センター支援チーム主任指導主事高橋亜希子氏、指導主事長崎雪子氏、指導主事進藤拓歩氏をはじめ、関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。併せて、本書を御高覧くださいました皆様より忌憚のない御意見、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

教頭 相場 力

令和7年度 研究同人

校長 高田屋 陽子
教頭 相場 力 渡部 陽子
教育専門監 小野 直子
研究主任 相原 淳

【小学部】

岡部 りか子 工藤 未央 山内 かほる 海道 史子 泉 薫
土門 柊 渡辺 舞子 山本 泉子 藤谷 和紀 小川 順子
加賀 美砂子 草階 朋子 宇佐美 朝子 兜森 宏征 大友 明希子
越後 駿 谷藤 洋子 遠藤 美和子 山田 玲子 慶長 美紀子
檜岡 裕子

【中学部】

島津 真奈美 笹渕 理恵子 信太 渉 伊岡森 真由 高橋 朋子
齋藤 行正 磯邊 千春 大高 梨沙子 佐藤 篤 浅利 節子
小松 良平 山崎 恵 工藤 あづさ 播磨屋 梢 佐藤 孝浩
熊谷 衛 若月 圭 大澤 安希 目黒 晃子 保坂 二美子
徳重 喬子

【高等部】

神田 純一 石川 雄太 三浦 ちあき 三浦 智子 五十嵐 美月
原田 恵 阿部 隆 朝香 賢介 大友 祥子 大塚 佳樹
熊地 勇太 市川 美帆 渋谷 純一 畑山 拓 加藤 麻美
村山 敏子 佐々木 憲一 矢野 隆治 米田 満美 後藤 真紀子
五十嵐 一 八 欽 せい子 岩谷 桜 河村 奈央

研究紀要「共に歩む」第22号

発行年月日 令和8年3月
発行所 秋田県立支援学校天王みどり学園
〒010-0101 秋田県潟上市天王字追分西 27-18
TEL 018-870-4611 FAX 018-870-4612
HP <http://www.midori-s.akita-pref.ed.jp>
E-mail midori-s@akita-pref.ed.jp